

RZ/N2H グループ

HIPERFACE DSL Safety サンプルプログラム

要旨

本アプリケーションノートでは、RZ/N2H の Encoder Interface を使用して、HIPERFACE DSL[®] 通信プロトコル仕様に準拠したエンコーダから、Safety 仕様のデータを含む情報を取得・表示するサンプルプログラムについて説明します。

プログラムの特徴を以下に示します。

- ・HIPERFACE DSL[®] 通信プロトコル仕様に準拠したエンコーダ (EDM35-2KF0A020A) から角度情報等
を取得

動作確認デバイス

RZ/N2H

目次

1. 仕様	3
2. 動作環境	4
3. 周辺機能説明	5
3.1 使用端子一覧	5
4. ソフトウェア説明	7
4.1 HFDSL ドライバ機能	7
4.2 ファイル構成	7
4.3 関数一覧	7
4.4 API 関数仕様	8
4.4.1 R_HFDSL_Open	8
4.4.2 R_HFDSL_Close	8
4.4.3 R_HFDSL_GetVersion	9
4.4.4 R_HFDSL_Control	9
4.5 ユーザー定義関数仕様	14
4.5.1 hfdsl_int_nml_callback	14
4.5.2 hfdsl_int_err_callback	14
4.5.3 hfdsl_int_safety_callback	15
4.5.4 hfdsl_int_mrcv_callback	15
4.5.5 hfdsl_int_smrcv_callback	16
4.6 割り込みハンドラ	16
4.6.1 hfdsl_int_isr_chn (n=0~15)	16
4.6.2 hfdsl_ints_isr_chn (n=0~15)	16
4.6.3 hfdsl_fpr_isr_chn (n=0~15)	17
4.6.4 hfdsl_sp_isr_chn (n=0~15)	17
4.6.5 hfdsl_err_isr	17
4.7 使用割り込み一覧	18
4.8 定数/エラーコード一覧	21
4.9 固定幅整数一覧	21
4.10 構造体/共用体/列挙型一覧	22
4.10.1 構造体	22
4.10.2 共用体	23
4.10.3 列挙型	23
4.11 サンプルプログラムの説明	24
4.11.1 動作概要	24
4.11.2 サンプルプログラムの変数一覧	26
4.11.3 サンプルプログラムの定数一覧	27
4.11.4 メイン処理のフローチャート	28
4.11.5 動作シーケンス	37
4.11.6 コンソールコマンド	42
5. サンプルコード	45
改訂記録	46

1. 仕様

表 1-1 に使用する周辺機能と用途を、図 1-1 にサンプルコード実行時の動作環境を示します。

表 1-1 使用する周辺機能と用途

周辺機能	用途
HIPERFACE DSL コントローラ(HDSL)	HIPERFACE DSL 通信プロトコルによる通信機能を備えたアプサリュートエンコーダとの通信
割り込みコントローラ(ICU)	HDSL の割り込み制御
汎用 PWM タイマ(GPT) ユニット 0 チャンネル 0	ELC に入力するイベント周期の生成
イベントリンクコントローラ (ELC)	GPT ユニット 0 チャンネル 0 が出力するイベントと HDSL をリンク
シリアル通信インタフェース(SCI) UART	SCI の調歩同期式 I/F を使用し、USB インタフェースによる COM ポート通信に使用 サンプルプログラムのコンソールインタフェース用

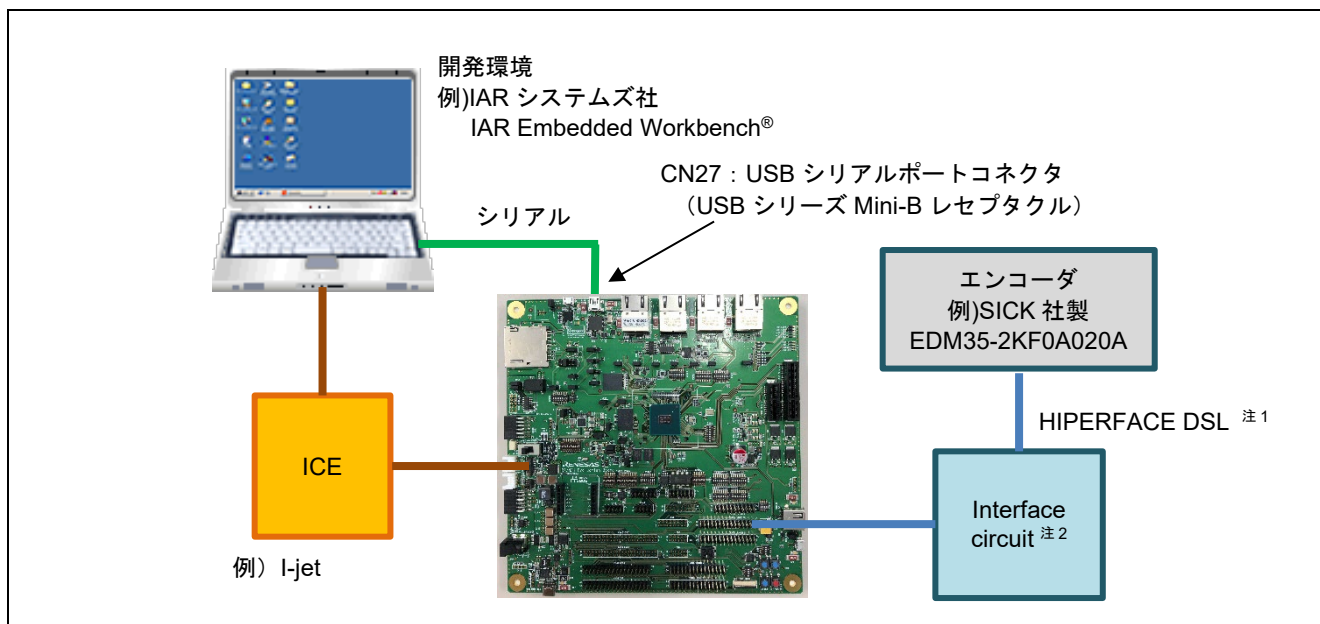


図 1-1 動作環境

- 【注】 1. 送受信可能なケーブル長は、エンコーダのマニュアルを参照してください。
2. 「HIPERFACE DSL® MASTER Safety Integration Manual」を参照してください。

2. 動作環境

本アプリケーションノートのサンプルコードは、下記の環境を想定しています。

表 2.1 動作環境

項目		内容
使用マイコン		RZ/N2H グループ
動作周波数 ^{注1}	CR52 版	CPUCLK = 1000 MHz (Cortex®-R52 CPU0)
	CA55 版	CPUCLK = 1200 MHz (Cortex®-A55 Core0)
動作電圧		0.8V(Core) / 1.1V (DDR) / 1.8V (PLL, etc.) / 3.3V (I/O)
統合開発環境 ^{注2}		IAR システムズ製 IAR Embedded Workbench® for Arm® RENESAS 製 e² studio
使用ボード		RZ/N2H Evaluation Board (RTK9RZN2Hxxxxxxxx)
使用デバイス (ボード上で使用する機能)		なし

- 【注】
1. サンプルプログラムには、CPU コア Cortex®-R52 で動作する CR52 版と、CPU コア Cortex®-A55 で動作する CA55 版があります。CR52 版、CA55 版はそれぞれの版に関する説明です。
 2. 統合開発環境のバージョンは、RZ/N2H グループ Encoder I/F HIPERFACE DSL Safety sample program リリースノートを参照してください。

3. 周辺機能説明

周辺機能、動作モード、レジスタについての基本的な内容は、RZ/N2H グループ・ユーザズマニュアルハードウェア編に記載しています。

3.1 使用端子一覧

表 3-1 に本アプリケーションノートのサンプルコードで使用する端子と機能を示します。チャンネル HFDSL0~HFDSL15 のうち、HFDSL8, HFDSL12, HFDSL15 には I/O ポートの割り当てがありません。残る 13 チャンネルのみが利用可能です。

表 3-1 使用端子と機能

チャンネル	端子名	I/O ポート	入出力	I/O 電源ドメイン	内容
HFDSL0	ENCIFDI00 (dsl_in)	P14_5	入力	VDD33	データ入力端子
	ENCIFDO00 (dsl_out)	P14_4	出力	VDD33	データ出力端子
	ENCIFOE00 (dsl_en)	P14_3	出力	VDD33	ドライブ/レシーブ制御端子
HFDSL1	ENCIFDI01 (dsl_in)	P27_0	入力	VDD33	データ入力端子
	ENCIFDO01 (dsl_out)	P26_7	出力	VDD33	データ出力端子
	ENCIFOE01 (dsl_en)	P02_1	出力	VDD1833_5	ドライブ/レシーブ制御端子
HFDSL2	ENCIFDI02 (dsl_in)	P03_2	入力	VDD33	データ入力端子
	ENCIFDO02 (dsl_out)	P03_1	出力	VDD33	データ出力端子
	ENCIFOE02 (dsl_en)	P03_4	出力	VDD33	ドライブ/レシーブ制御端子
HFDSL3	ENCIFDI03 (dsl_in)	P13_3	入力	VDD1833_6	データ入力端子
	ENCIFDO03 (dsl_out)	P13_2	出力	VDD1833_6	データ出力端子
	ENCIFOE03 (dsl_en)	P13_1	出力	VDD1833_6	ドライブ/レシーブ制御端子
HFDSL4	ENCIFDI04(dsl_in)	P10_5	入力	VDD33	データ入力端子
	ENCIFDO04 (dsl_out)	P10_4	出力	VDD33	データ出力端子
	ENCIFOE04 (dsl_en)	P10_3	出力	VDD33	ドライブ/レシーブ制御端子
HFDSL5	ENCIFDI05 (dsl_in)	P12_7	入力	VDD1833_6	データ入力端子
	ENCIFDO05 (dsl_out)	P12_6	出力	VDD1833_6	データ出力端子
	ENCIFOE05 (dsl_en)	P12_5	出力	VDD1833_6	ドライブ/レシーブ制御端子
HFDSL6	ENCIFDI06 (dsl_in)	P34_1	入力	VDD1833_3	データ入力端子
	ENCIFDO06 (dsl_out)	P34_0	出力	VDD1833_3	データ出力端子
	ENCIFOE06 (dsl_en)	P33_7	出力	VDD1833_3	ドライブ/レシーブ制御端子
HFDSL7	ENCIFDI07 (dsl_in)	P34_5	入力	VDD1833_3	データ入力端子
	ENCIFDO07 (dsl_out)	P34_4	出力	VDD1833_3	データ出力端子
	ENCIFOE07 (dsl_en)	P34_3	出力	VDD1833_3	ドライブ/レシーブ制御端子
HFDSL8	ENCIFDI08 (dsl_in)	-	-	-	N.A.
	ENCIFDO08 (dsl_out)	-	-	-	N.A.
	ENCIFOE08 (dsl_en)	-	-	-	N.A.
HFDSL9	ENCIFDI09 (dsl_in)	P29_4	入力	VDD1833_2	データ入力端子
	ENCIFDO09 (dsl_out)	P29_3	出力	VDD1833_2	データ出力端子
	ENCIFOE09 (dsl_en)	P29_2	出力	VDD1833_2	ドライブ/レシーブ制御端子
HFDSL10	ENCIFDI10 (dsl_in)	P30_0	入力	VDD1833_2	データ入力端子
	ENCIFDO10 (dsl_out)	P29_7	出力	VDD1833_2	データ出力端子
	ENCIFOE10 (dsl_en)	P29_6	出力	VDD1833_2	ドライブ/レシーブ制御端子

チャンネル	端子名	I/O ポート	入出力	I/O 電源ドメイン	内容
HFDSL11	ENCIFDI11 (dsl_in)	P30_4	入力	VDD1833_2	データ入力端子
	ENCIFDO11 (dsl_out)	P30_3	出力	VDD1833_2	データ出力端子
	ENCIFOE11 (dsl_en)	P30_2	出力	VDD1833_2	ドライブ/レシーブ制御端子
HFDSL12	ENCIFDI12 (dsl_in)	-	-	-	N.A.
	ENCIFDO12 (dsl_out)	-	-	-	N.A.
	ENCIFOE12 (dsl_en)	-	-	-	N.A.
HFDSL13	ENCIFDI13 (dsl_in)	P13_7	入力	VDD1833_6	データ入力端子
	ENCIFDO13 (dsl_out)	P13_6	出力	VDD1833_6	データ出力端子
	ENCIFOE13 (dsl_en)	P13_5	出力	VDD1833_6	ドライブ/レシーブ制御端子
HFDSL14	ENCIFDI14 (dsl_in)	P18_7	入力	VDD33	データ入力端子
	ENCIFDO14 (dsl_out)	P18_6	出力	VDD33	データ出力端子
	ENCIFOE14 (dsl_en)	P18_5	出力	VDD33	ドライブ/レシーブ制御端子
HFDSL15	ENCIFDI15 (dsl_in)	-	-	-	N.A.
	ENCIFDO15 (dsl_out)	-	-	-	N.A.
	ENCIFOE15 (dsl_en)	-	-	-	N.A.

4. ソフトウェア説明

4.1 HFDSL ドライバ機能

HFDSL ドライバの機能は以下です。

1. 初期設定
2. 位置データの取得
3. メッセージの送受信

4.2 ファイル構成

ファイル構成は、RZ/N2H グループ Encoder I/F HIPERFACE DSL Safety sample program リリースノートを参照してください。

4.3 関数一覧

表 4-1 に関数一覧を示します。

表 4-1 関数一覧

カテゴリ	関数名	ページ番号
HFDSL ドライバ API 関数	R_HFDSL_Open	8
	R_HFDSL_Close	8
	R_HFDSL_GetVersion	9
	R_HFDSL_Control	9
ユーザー定義関数	hfdsl_int_nml_callback	14
	hfdsl_int_err_callback	14
	hfdsl_int_safety_callback	15
	hfdsl_int_mrcv_callback	15
	hfdsl_int_smrcv_callback	16
割り込みハンドラ	hfdsl_int_isr_chn (n=0~15)	16
	hfdsl_ints_isr_chn (n=0~15)	16
	hfdsl_fpr_isr_chn (n=0~15)	17
	hfdsl_sp_isr_chn (n=0~15)	17
	hfdsl_err_isr	17

4.4 API 関数仕様

4.4.1 R_HFDSL_Open

R_HFDSL_Open	
概要	エンコーダ制御の開始
ヘッダ	r_hfdsl_rzt2_if.h
宣言	int32_t R_HFDSL_Open(const int32_t id, r_hfdsl_info_t* p_info);
説明	HFDSL ドライバを使用する前に本関数を実行してください。本関数ではドライバの初期化を行います。 ・割り込みの設定 ・コールバック関数の設定
引数	id : 使用する ID を指定します。(r_hfdsl_rzt2_dat.h で定義されています。) R_HFDSL0_ID : チャンネル 0 を指定 R_HFDSL1_ID : チャンネル 1 を指定 : : R_HFDSL15_ID : チャンネル 15 を指定 上記以外 : 設定不可 p_info : ドライバの初期設定情報 ドライバの初期設定情報を格納した r_hfdsl_info_t 構造体のポインタを指定してください。
リターン値	R_HFDSL_SUCCESS : 正常終了 R_HFDSL_ERR_INVALID_ARG : 異常終了 (id, p_info に指定した r_hfdsl_info_t 構造体のメンバ変数が無効、または規定されていない値) R_HFDSL_ERR_ACCESS : 異常終了 (既に本関数が実行されています)
注意	本サンプルプログラムでは、チャンネル 8, チャンネル 12, チャンネル 15 は無効です。 コールバック関数内で、本 API 関数を実行することは禁止します。

4.4.2 R_HFDSL_Close

R_HFDSL_Close	
概要	エンコーダの制御を終了
ヘッダ	r_hfdsl_rzt2_if.h
宣言	int32_t R_HFDSL_Close(const int32_t id);
説明	R_HFDSL_Open で設定した割り込みをディセーブルし、エンコーダの制御を終了します。
引数	id : 使用する ID を指定します。(r_hfdsl_rzt2_dat.h で定義されています。) R_HFDSL0_ID : チャンネル 0 を指定 R_HFDSL1_ID : チャンネル 1 を指定 : : R_HFDSL15_ID : チャンネル 15 を指定 上記以外 : 設定不可
リターン値	R_HFDSL_SUCCESS : 正常終了 R_HFDSL_ERR_INVALID_ARG : 異常終了 (id に指定した値が無効、または規定されていない値)
注意	本関数実行前に、必ず R_HFDSL_Open を実行してください。 本サンプルプログラムでは、チャンネル 8, チャンネル 12, チャンネル 15 は無効です。 コールバック関数内で、本 API 関数を実行することは禁止します。

4.4.3 R_HFDSL_GetVersion

R_HFDSL_GetVersion	
概要	ドライバのバージョンを取得
ヘッダ	r_hfdsl_rzt2_if.h
宣言	uint32_t R_HFDSL_GetVersion(void);
説明	ドライバのバージョンを取得します。
引数	なし
リターン値	上位 16 ビットにメジャーバージョン、下位 16 ビットにマイナーバージョンが格納されます。 例) リターン値が 00010002h の場合、Ver.1.2

4.4.4 R_HFDSL_Control

R_HFDSL_Control	
概要	エンコーダの制御
ヘッダ	r_hfdsl_rzt2_if.h
宣言	int32_t R_HFDSL_Control(const int32_t id, const r_hfdsl_cmd_t cmd, void *const p_buf);
説明	引数 cmd を使ってエンコーダを制御します。 制御コマンドの動作は「4.4.4(1) プロトコル初期化コマンド」と「4.4.4(2) 制御コマンド」を参照してください。
引数	id : 使用する ID を指定します。(r_hfdsl_rzt2_dat.h で定義されています。) R_HFDSL0_ID : チャンネル 0 を指定 R_HFDSL1_ID : チャンネル 1 を指定 : : R_HFDSL15_ID : チャンネル 15 を指定 上記以外 : 設定不可 cmd : コマンド 内容は「4.4.4(1) プロトコル初期化コマンド」と「4.4.4(2) 制御コマンド」を参照してください。 p_buf : 各 cmd に対応する引数
リターン値	R_HFDSL_SUCCESS : 正常終了 R_HFDSL_ERR_INVALID_ARG : 異常終了 (id, cmd に設定した値が無効、または規定されていない値) その他リターン値は「4.4.4(1) プロトコル初期化コマンド」と「4.4.4(2) 制御コマンド」を参照してください。
注意	本サンプルプログラムでは、チャンネル 8, チャンネル 12, チャンネル 15 は無効です。

(1) プロトコル初期化コマンド

(a) R_HFDSL_CMD_INIT

R_HFDSL_CMD_INIT	
概要	プロトコルの初期化
ヘッダ	r_hfdsl_rzt2_if.h
宣言	int32_t R_HFDSL_Control(const int32_t id, const r_hfdsl_cmd_t cmd, void *const p_buf);
説明	R_HFDSL_Open 関数実行後、またはプロトコルリセットが発生した後に実行してください。プロトコルリセット発生を検出方法については、「4.5.2 hfdsl_int_err_callback」を参照してください。
引数	id : 使用する ID を指定します。(r_hfdsl_rzt2_dat.h で定義されています。) R_HFDSL0_ID : チャンネル 0 を指定 R_HFDSL1_ID : チャンネル 1 を指定 : R_HFDSL15_ID : チャンネル 15 を指定 上記以外 : 設定不可 cmd : R_HFDSL_CMD_INIT を指定します。 p_buf : NULL を設定してください。
リターン値	R_HFDSL_SUCCESS : 正常終了 R_HFDSL_ERR_INVALID_ARG : 異常終了 (id、p_buf が不正値) R_HFDSL_ERR_ACCESS : 異常終了 (R_HFDSL_Open が実行されていない。) R_HFDSL_ERR_INIT : 異常終了 (リンクチェックでタイムアウトが発生した。)
注意	本サンプルプログラムでは、チャンネル 8, チャンネル 12, チャンネル 15 は無効です。コールバック関数内で、本 API 関数を実行することは禁止します。

(b) R_HFDSL_CMD_ENCIDL

R_HFDSL_CMD_ENCIDL	
概要	エンコーダ ID の確認
ヘッダ	r_hfdsl_rzt2_if.h
宣言	int32_t R_HFDSL_Control(const int32_t id, const r_hfdsl_cmd_t cmd, void *const p_buf);
説明	プロトコル初期化コマンド「R_HFDSL_CMD_INIT」を実行してから、本関数を実行してください。 リターン値が R_HFDSL_ERR_INIT で再度プロトコルの初期化を行う場合は、制御コマンド「R_HFDSL_CMD_RST」を実行後、プロトコル初期化コマンド「R_HFDSL_CMD_INIT」からやり直してください。
引数	id : 使用する ID を指定します。(r_hfdsl_rzt2_dat.h で定義されています。) R_HFDSL0_ID : チャンネル 0 を指定 R_HFDSL1_ID : チャンネル 1 を指定 : R_HFDSL15_ID : チャンネル 15 を指定 上記以外 : 設定不可 cmd : R_HFDSL_CMD_ENCIDL を指定します。 p_buf : エンコーダ ID エンコーダ ID を格納した uint32_t 型のポインタ変数を設定してください。
リターン値	R_HFDSL_SUCCESS : 正常終了 R_HFDSL_ERR_INVALID_ARG : 異常終了 (id が不正値、p_buf が NULL) R_HFDSL_ERR_ACCESS : 異常終了 (R_HFDSL_CMD_INIT が実行されていない。) R_HFDSL_ERR_INIT : 異常終了 (接続しているエンコーダと指定したエンコーダ ID が違う。)
注意	本サンプルプログラムでは、チャンネル 8, チャンネル 12, チャンネル 15 は無効です。コールバック関数内で、本 API 関数を実行することは禁止します。

(2) 制御コマンド

(a) R_HFDSL_CMD_POS

R_HFDSL_CMD_POS	
概要	Fast position の取得
ヘッダ	r_hfdsl_rzt2_if.h
宣言	int32_t R_HFDSL_Control(const int32_t id, const r_hfdsl_cmd_t cmd, void *const p_buf);
説明	Fast position レジスタ (POS4~POS0) をリードして、Fast position を取得します。
引数	id : 使用する ID を指定します。(r_hfdsl_rzt2_dat.h で定義されています。) R_HFDSL0_ID : チャンネル 0 を指定 R_HFDSL1_ID : チャンネル 1 を指定 : R_HFDSL15_ID : チャンネル 15 を指定 上記以外 : 設定不可 cmd : R_HFDSL_CMD_POS を指定します。 p_buf : Fast position Fast position を格納する r_hfdsl_pos_t 構造体のポインタを指定します。詳細は「4.10.1(2) r_hfdsl_pos_t」参照してください。
リターン値	R_HFDSL_SUCCESS : 正常終了 R_HFDSL_ERR_INVALID_ARG : 異常終了 (id が不正値、p_buf が NULL)
注意	本サンプルプログラムでは、チャンネル 8, チャンネル 12, チャンネル 15 は無効です。

(b) R_HFDSL_CMD_VPOS

R_HFDSL_CMD_VPOS	
概要	Safe position の取得
ヘッダ	r_hfdsl_rzt2_if.h
宣言	int32_t R_HFDSL_Control(const int32_t id, const r_hfdsl_cmd_t cmd, void *const p_buf);
説明	Safe position レジスタ (VPOS4~VPOS0)、Safe position CRC レジスタ (VPOSCRC_H, VPOSCRC_L) をリードして、Safe position を取得します。 安全チャンネル 1 インタフェースレジスタへのアクセスが無効に設定されている場合には、アクセスエラーを返します。
引数	id : 使用する ID を指定します。(r_hfdsl_rzt2_dat.h で定義されています。) R_HFDSL0_ID : チャンネル 0 を指定 R_HFDSL1_ID : チャンネル 1 を指定 : R_HFDSL15_ID : チャンネル 15 を指定 上記以外 : 設定不可 cmd : R_HFDSL_CMD_VPOS を指定します。 p_buf : Safe position Safe position を格納する r_hfdsl_vpos_t 構造体のポインタを指定します。詳細は「4.10.1(3) r_hfdsl_vpos_t」参照してください。
リターン値	R_HFDSL_SUCCESS : 正常終了 R_HFDSL_ERR_INVALID_ARG : 異常終了 (id が不正値、p_buf が NULL) R_HFDSL_ERR_ACCESS : 異常終了 (安全チャンネル 1 インタフェースレジスタへのアクセスが無効)
注意	本サンプルプログラムでは、チャンネル 8, チャンネル 12, チャンネル 15 は無効です。

(c) R_HFDSL_CMD_VEL

R_HFDSL_CMD_VEL	
概要	モータの回転速度の取得
ヘッダ	r_hfdsl_rzt2_if.h
宣言	int32_t R_HFDSL_Control(const int32_t id, const r_hfdsl_cmd_t cmd, void *const p_buf);
説明	速度レジスタ(VEL2~VELO)をリードして、モータの回転速度を取得します。
引数	id : 使用する ID を指定します。(r_hfdsl_rzt2_dat.h で定義されています。) R_HFDSL0_ID : チャンネル 0 を指定 R_HFDSL1_ID : チャンネル 1 を指定 : : R_HFDSL15_ID : チャンネル 15 を指定 上記以外 : 設定不可 cmd : R_HFDSL_CMD_VEL を指定します。 p_buf : モータの回転速度 モータの回転速度を格納する uint32_t 型のポインタを指定します。
リターン値	R_HFDSL_SUCCESS : 正常終了 R_HFDSL_ERR_INVALID_ARG : 異常終了 (id が不正値、p_buf が NULL)
注意	本サンプルプログラムでは、チャンネル 8, チャンネル 12, チャンネル 15 は無効です。

(d) R_HFDSL_CMD_MSG

R_HFDSL_CMD_MSG	
概要	メッセージの送信
ヘッダ	r_hfdsl_rzt2_if.h
宣言	int32_t R_HFDSL_Control(const int32_t id, const r_hfdsl_cmd_t cmd, void *const p_buf);
説明	メッセージの送信を行います。受信データは hfdsl_int_mrcv_callback 関数によって通知されます。関数の詳細は「4.5.4 hfdsl_int_mrcv_callback」を参照してください。
引数	id : 使用する ID を指定します。(r_hfdsl_rzt2_dat.h で定義されています。) R_HFDSL0_ID : チャンネル 0 を指定 R_HFDSL1_ID : チャンネル 1 を指定 : : R_HFDSL15_ID : チャンネル 15 を指定 上記以外 : 設定不可 cmd : R_HFDSL_CMD_MSG を指定します。 p_buf : メッセージ送信データ メッセージ送信データを格納する r_hfdsl_send_msg_t 構造体のポインタを指定します。詳細は「4.10.1(4) r_hfdsl_send_msg_t」参照してください。
リターン値	R_HFDSL_SUCCESS : 正常終了 R_HFDSL_ERR_INVALID_ARG : 異常終了 (id が不正値、p_buf が NULL) R_HFDSL_ERR_ACCESS : 異常終了 (4.4.4(1) プロトコル初期化コマンドが実行されていない)
注意	本サンプルプログラムでは、チャンネル 8, チャンネル 12, チャンネル 15 は無効です。 コールバック関数内で、本 API 関数を実行することは禁止します。 次の送信を行う場合は、hfdsl_int_mrcv_callback 関数がコールされてから、本関数を実行して送信を行ってください。

(e) R_HFDSL_CMD_RST

R_HFDSL_CMD_RST	
概要	プロトコルリセット
ヘッダ	r_hfdsl_rzt2_if.h
宣言	int32_t R_HFDSL_Control(const int32_t id, const r_hfdsl_cmd_t cmd, void *const p_buf);
説明	プロトコルをリセットします。 本関数を実行後は、EVENT_H レジスタの PRST ビットによる、HDSL _n _INT 割り込みが発生します。 通信を再開する場合は、「4.4.4(1) プロトコル初期化コマンド」を実行してください。
引数	id : 使用する ID を指定します。(r_hfdsl_rzt2_dat.h で定義されています。) R_HFDSL0_ID : チャンネル 0 を指定 R_HFDSL1_ID : チャンネル 1 を指定 : : R_HFDSL15_ID : チャンネル 15 を指定 上記以外 : 設定不可 cmd : R_HFDSL_CMD_RST を指定します。 p_buf : NULL を設定してください。
リターン値	R_HFDSL_SUCCESS : 正常終了 R_HFDSL_ERR_INVALID_ARG : 異常終了 (id, p_buf が不正値)
注意	本サンプルプログラムでは、チャンネル 8, チャンネル 12, チャンネル 15 は無効です。

(f) R_HFDSL_CMD_SMSG

R_HFDSL_CMD_SMSG	
概要	ショートメッセージの送受信
ヘッダ	r_hfdsl_rzt2_if.h
宣言	int32_t R_HFDSL_Control(const int32_t id, const r_hfdsl_cmd_t cmd, void *const p_buf);
説明	ショートメッセージの受信 / クリアを行います。受信データは hfdsl_int_smrcv_callback 関数によって通知されます。関数の詳細は「4.5.5 hfdsl_int_smrcv_callback」を参照してください。
引数	id : 使用する ID を指定します。(r_hfdsl_rzt2_dat.h で定義されています。) R_HFDSL0_ID : チャンネル 0 を指定 R_HFDSL1_ID : チャンネル 1 を指定 : : R_HFDSL15_ID : チャンネル 15 を指定 上記以外 : 設定不可 cmd : R_HFDSL_CMD_SMSG を指定します。 p_buf : メッセージ送信データ メッセージ送信データを格納する r_hfdsl_send_msg_t 構造体のポインタを指定します。詳細は「4.10.1(4) r_hfdsl_send_msg_t」参照してください。
リターン値	R_HFDSL_SUCCESS : 正常終了 R_HFDSL_ERR_INVALID_ARG : 異常終了 (id が不正値、p_buf が NULL) R_HFDSL_ERR_ACCESS : 異常終了(4.4.4(1) プロトコル初期化コマンドが実行されていない)
注意	本サンプルプログラムでは、チャンネル 8, チャンネル 12, チャンネル 15 は無効です。 コールバック関数内で、本 API 関数を実行することは禁止します。 次の送信を行う場合は、hfdsl_int_smrcv_callback 関数がコールされてから、本関数を実行して送信を行ってください。

4.5 ユーザー定義関数仕様

4.5.1 hfdsl_int_nml_callback

hfdsl_int_nml_callback	
概要	HDSLn_FPR 割り込み発生を通知
ヘッダ	-
宣言	void hfdsl_int_nml_callback(uint8_t event);
説明	<p>R_HFDSL_Open 関数の引数 r_hfdsl_info_t 構造体のメンバ変数 p_cb_nml で登録したコールバック関数です。Fast position が読み出し可能になったことを示す HDSLn_FPR 割り込み発生時に、event を POS_RDY_BIT としてコールされます。</p> <p>本関数内で R_HFDSL_Control(R_HFDSL_CMD_POS)関数を実行することで、Fast position を取得することができます。</p> <p>本関数は割り込みハンドラのコンテキストとなります。割り込みの応答性を確保するため、速やかにリターンするようにしてください。関数名は例であり、自由に設定できます。</p>
引数	<p>event : 割り込みの発生要因</p> <p>POS_RDY_BIT が格納されています。</p> <p>本関数内のみ有効です。</p>
リターン値	なし

4.5.2 hfdsl_int_err_callback

hfdsl_int_err_callback	
概要	HDSLn_INT 割り込み発生を通知
ヘッダ	-
宣言	void hfdsl_int_err_callback(uint32_t event_err);
説明	<p>R_HFDSL_Open 関数の引数 r_hfdsl_info_t 構造体のメンバ変数 p_cb_err で登録したコールバック関数です。EVENT_H レジスタの SUM ビット、POS ビット、DTE ビット、PRST ビット、および、EVENT_L レジスタの MIN ビット、ANS ビット、QMLW ビットによる HDSLn_INT 割り込み発生時にコールされます。</p> <p>本関数は割り込みハンドラのコンテキストとなります。割り込みの応答性を確保するため、速やかにリターンするようにしてください。関数名は例であり、自由に設定できます。</p>
引数	<p>event_err : HDSLn_INT 割り込みの発生要因</p> <p>EVENT_H, EVENT_L レジスタの値が格納されています。本関数内のみ有効です。</p>
リターン値	なし
注意	EVENT_L レジスタの FREL ビットによる HDSLn_INT 割り込み発生時はコールされません。

4.5.3 hfdsl_int_safety_callback

hfdsl_int_safety_callback	
概要	HDSL _n _SP 割り込み発生を通知
ヘッダ	-
宣言	void hfdsl_int_safety_callback(uint8_t *p_safety1, uint8_t *p_safety2);
説明	<p>R_HFDSL_Open 関数の引数 r_hfdsl_info_t 構造体のメンバ変数 p_cb_safety で登録したコールバック関数です。Safety position が読み出し可能になったことを示す HDSL_n_SP 割り込み発生時にコールされます。</p> <p>本関数は割り込みハンドラのコンテキストとなります。割り込みの応答性を確保するため、速やかにリターンするようにしてください。関数名は例であり、自由に設定できます。</p>
引数	<p>p_safety1[] : 安全チャンネル 1 のステータス, 位置, および CRC レジスタ値 安全チャンネル 1 インタフェースレジスタへのアクセスが有効に設定されている場合、p_safety1 のポインタで示される配列には、安全チャンネル 1 の SAFE_SUM レジスタに続き、安全位置 (VPOS4~VPOS0) レジスタ、安全位置 CRC (VPOSCRC_H, VPOSCRC_L) レジスタの値が格納されています。 安全チャンネル 1 インタフェースレジスタへのアクセスが無効に設定されている場合は、p_safety1 に NULL ポインタが格納されます。 格納された値は、本関数内のみ有効です。</p> <p>p_safety2[] : 安全チャンネル 2 のステータス, 位置, および CRC レジスタ値 安全チャンネル 2 インタフェースレジスタへのアクセスが有効に設定されている場合、p_safety2 のポインタで示される配列には、安全チャンネル 2 の STATUS2 レジスタに続き、安全位置 (VPOS24~VPOS20) レジスタ、安全位置 CRC2 (VPOSCRC2_H, VPOSCRC2_L) レジスタの値が格納されています。 安全チャンネル 2 インタフェースレジスタへのアクセスが無効に設定されている場合は、p_safety2 に NULL ポインタが格納されます。 格納された値は、本関数内のみ有効です。</p>
リターン値	なし

4.5.4 hfdsl_int_mrcv_callback

hfdsl_int_mrcv_callback	
概要	EVENT_L レジスタの FREL ビットによる HDSL _n _INT 割り込み発生を通知
ヘッダ	-
宣言	void hfdsl_int_mrcv_callback(uint8_t* msg_data);
説明	<p>R_HFDSL_Control (R_HFDSL_CMD_MSG)関数で登録したコールバック関数です。EVENT_L レジスタの FREL ビットによる HDSL_n_INT 割り込みが発生し、受信メッセージのデータ格納が完了した時にコールされます。</p> <p>本関数は割り込みハンドラのコンテキストとなります。割り込みの応答性を確保するため、速やかにリターンするようにしてください。関数名は例であり、自由に設定できます。</p>
引数	<p>msg_data[] : メッセージアドレスおよび PC_BUF レジスタ値 メッセージアドレス 2 バイト(PC_ADD_H, PC_ADD_L)に続き、Long messages の PC_BUF0~PC_BUF7 レジスタ値が格納されています。 メッセージアドレス PC_ADD_H の第 5 ビット LOFF には、メッセージの受信エラー有無が格納されます。 次の FREL ビットによる HDSL_n_INT 割り込み発生まで有効です。</p>
リターン値	なし

4.5.5 hfdsl_int_smrcv_callback

hfdsl_int_smrcv_callback	
概要	EVENT_S レジスタの FRES ビットによる HDSL _n _INTS 割り込み発生を通知
ヘッダ	-
宣言	void hfdsl_int_smrcv_callback(uint8_t* msg_data);
説明	R_HFDSL_Control (R_HFDSL_CMD_SMSG)関数で登録したコールバック関数です。 EVENT_S レジスタの FRES ビットによる HDSL _n _INTS 割り込みが発生し、受信メッセージのデータ格納が完了した時にコールされます。 本関数は割り込みハンドラのコンテキストとなります。割り込みの応答性を確保するため、速やかにリターンするようにしてください。関数名は例であり、自由に設定できます。
引数	msg_data[] : PC_DATA レジスタ値 Short message 受信データとしての PC_DATA レジスタ値が格納されています。 次の FRES ビットによる HDSL _n _INTS 割り込み発生まで有効です。
リターン値	なし

4.6 割り込みハンドラ

4.6.1 hfdsl_int_isr_chn (n=0~15)

hfdsl_int_isr_chn	
概要	HDSL _n _INT 割り込みの割り込みハンドラ
ヘッダ	-
宣言	static void hfdsl_int_isr_chn(void);
説明	HDSL _n _INT 割り込みに対する割り込みハンドラです。 割り込み要因が EVENT_L レジスタの FREL ビットだった場合は、コールバック関数の hfdsl_int_mrcv_callback 関数をコールします。 EVENT_H レジスタおよび EVENT_L レジスタのその他のビットが要因で割り込みが発生した場合は、コールバック関数の hfdsl_int_err_callback 関数をコールします。
引数	なし
リターン値	なし
注意	本サンプルプログラムでは、チャンネル 8, チャンネル 12, チャンネル 15 は無効です。無効なチャンネルに対する割り込みハンドラはありません。

4.6.2 hfdsl_ints_isr_chn (n=0~15)

hfdsl_ints_isr_chn	
概要	HDSL _n _INTS 割り込みの割り込みハンドラ
ヘッダ	-
宣言	static void hfdsl_ints_isr_chn(void);
説明	HDSL _n _INTS 割り込みに対する割り込みハンドラです。 割り込み要因が EVENT_S レジスタの FRES ビットだった場合は、コールバック関数の hfdsl_int_smrcv_callback 関数をコールします。
引数	なし
リターン値	なし
注意	本サンプルプログラムでは、チャンネル 8, チャンネル 12, チャンネル 15 は無効です。無効なチャンネルに対する割り込みハンドラはありません。

4.6.3 hfdsl_fpr_isr_chn (n=0~15)

hfdsl_fpr_isr_chn	
概要	HDSL n _FPR 割り込みの割り込みハンドラ
ヘッダ	-
宣言	static void hfdsl_fpr_isr_chn(void);
説明	HDSL n _FPR 割り込みに対する割り込みハンドラです。 割り込み発生時はコールバック関数の hfdsl_int_nml_callback 関数をコールします。
引数	なし
リターン値	なし
注意	本サンプルプログラムでは、チャンネル 8, チャンネル 12, チャンネル 15 は無効です。無効なチャンネルに対する割り込みハンドラはありません。

4.6.4 hfdsl_sp_isr_chn (n=0~15)

hfdsl_sp_isr_chn	
概要	HDSL n _SP 割り込みの割り込みハンドラ
ヘッダ	-
宣言	static void hfdsl_sp_isr_chn(void);
説明	HDSL n _SP 割り込みに対する割り込みハンドラです。 割り込み発生時はコールバック関数の hfdsl_int_safety_callback 関数をコールします。
引数	なし
リターン値	なし
注意	本サンプルプログラムでは、チャンネル 8, チャンネル 12, チャンネル 15 は無効です。無効なチャンネルに対する割り込みハンドラはありません。

4.6.5 hfdsl_err_isr

hfdsl_err_isr	
概要	PERI_ERR0 割り込みの割り込みハンドラ
ヘッダ	-
宣言	static void hfdsl_err_isr(void);
説明	PERI_ERR0 割り込みに対する割り込みハンドラです。 ENCIFERR_STAT n (n=1~4)レジスタからエラー要因を引き取り、割り込みをクリアします。
引数	なし
リターン値	なし

4.7 使用割り込み一覧

表 4-2 に HFDSL ドライバで使用する割り込みを示します。

表 4-2 HFDSL ドライバで使用する割り込み

割り込み	ID ^{注1}		概要
	CR52 版	CA55 版	
HDSL0_INT	388	716	Ch0 EVENT_H レジスタ、EVENT_L レジスタの何れかのビットが“1”に更新されると割り込みが発生します。
HDSL0_INTS	389	717	Ch0 のショートメッセージを受信すると割り込みが発生します。
HDSL0_FPR	390	718	Ch0 の Fast position が読み出し可能になると割り込みが発生します。
HDSL0_SP	391	719	Ch0 の Safety position が読み出し可能になると割り込みが発生します。
HDSL1_INT	392	720	Ch1 EVENT_H レジスタ、EVENT_L レジスタの何れかのビットが“1”に更新されると割り込みが発生します。
HDSL1_INTS	393	721	Ch1 のショートメッセージを受信すると割り込みが発生します。
HDSL1_FPR	394	722	Ch1 の Fast position が読み出し可能になると割り込みが発生します。
HDSL1_SP	395	723	Ch1 の Safety position が読み出し可能になると割り込みが発生します。
HDSL2_INT	396	724	Ch2 EVENT_H レジスタ、EVENT_L レジスタの何れかのビットが“1”に更新されると割り込みが発生します。
HDSL2_INTS	397	725	Ch2 のショートメッセージを受信すると割り込みが発生します。
HDSL2_FPR	398	726	Ch2 の Fast position が読み出し可能になると割り込みが発生します。
HDSL2_SP	399	727	Ch2 の Safety position が読み出し可能になると割り込みが発生します。
HDSL3_INT	400	728	Ch3 EVENT_H レジスタ、EVENT_L レジスタの何れかのビットが“1”に更新されると割り込みが発生します。
HDSL3_INTS	401	729	Ch3 のショートメッセージを受信すると割り込みが発生します。
HDSL3_FPR	402	730	Ch3 の Fast position が読み出し可能になると割り込みが発生します。
HDSL3_SP	403	731	Ch3 の Safety position が読み出し可能になると割り込みが発生します。
HDSL4_INT	404	732	Ch4 EVENT_H レジスタ、EVENT_L レジスタの何れかのビットが“1”に更新されると割り込みが発生します。
HDSL4_INTS	405	733	Ch4 のショートメッセージを受信すると割り込みが発生します。
HDSL4_FPR	406	734	Ch4 の Fast position が読み出し可能になると割り込みが発生します。
HDSL4_SP	407	735	Ch4 の Safety position が読み出し可能になると割り込みが発生します。
HDSL5_INT	408	736	Ch5 EVENT_H レジスタ、EVENT_L レジスタの何れかのビットが“1”に更新されると割り込みが発生します。
HDSL5_INTS	409	737	Ch5 のショートメッセージを受信すると割り込みが発生します。
HDSL5_FPR	410	738	Ch5 の Fast position が読み出し可能になると割り込みが発生します。
HDSL5_SP	411	739	Ch5 の Safety position が読み出し可能になると割り込みが発生します。

割り込み	ID ^{注1}		概要
	CR52 版	CA55 版	
HDSL6_INT	412	740	Ch6 EVENT_H レジスタ、EVENT_L レジスタの何れかのビットが"1"に更新されると割り込みが発生します。
HDSL6_INTS	413	741	Ch6 のショートメッセージを受信すると割り込みが発生します。
HDSL6_FPR	414	742	Ch6 の Fast position が読み出し可能になると割り込みが発生します。
HDSL6_SP	415	743	Ch6 の Safety position が読み出し可能になると割り込みが発生します。
HDSL7_INT	416	744	Ch7 EVENT_H レジスタ、EVENT_L レジスタの何れかのビットが"1"に更新されると割り込みが発生します。
HDSL7_INTS	417	745	Ch7 のショートメッセージを受信すると割り込みが発生します。
HDSL7_FPR	418	746	Ch7 の Fast position が読み出し可能になると割り込みが発生します。
HDSL7_SP	419	747	Ch7 の Safety position が読み出し可能になると割り込みが発生します。
HDSL8_INT	-	-	この割り込みは使われません。 ^{注2}
HDSL8_INTS	-	-	この割り込みは使われません。 ^{注2}
HDSL8_FPR	-	-	この割り込みは使われません。 ^{注2}
HDSL8_SP	-	-	この割り込みは使われません。 ^{注2}
HDSL9_INT	420	752	Ch9 EVENT_H レジスタ、EVENT_L レジスタの何れかのビットが"1"に更新されると割り込みが発生します。
HDSL9_INTS	421	753	Ch9 のショートメッセージを受信すると割り込みが発生します。
HDSL9_FPR	422	754	Ch9 の Fast position が読み出し可能になると割り込みが発生します。
HDSL9_SP	423	755	Ch9 の Safety position が読み出し可能になると割り込みが発生します。
HDSL10_INT	424	756	Ch10 EVENT_H レジスタ、EVENT_L レジスタの何れかのビットが"1"に更新されると割り込みが発生します。
HDSL10_INTS	425	757	Ch10 のショートメッセージを受信すると割り込みが発生します。
HDSL10_FPR	426	758	Ch10 の Fast position が読み出し可能になると割り込みが発生します。
HDSL10_SP	427	759	Ch10 の Safety position が読み出し可能になると割り込みが発生します。
HDSL11_INT	428	760	Ch11 EVENT_H レジスタ、EVENT_L レジスタの何れかのビットが"1"に更新されると割り込みが発生します。
HDSL11_INTS	429	761	Ch11 のショートメッセージを受信すると割り込みが発生します。
HDSL11_FPR	430	762	Ch11 の Fast position が読み出し可能になると割り込みが発生します。
HDSL11_SP	431	763	Ch11 の Safety position が読み出し可能になると割り込みが発生します。
HDSL12_INT	-	-	この割り込みは使われません。 ^{注2}
HDSL12_INTS	-	-	この割り込みは使われません。 ^{注2}
HDSL12_FPR	-	-	この割り込みは使われません。 ^{注2}
HDSL12_SP	-	-	この割り込みは使われません。 ^{注2}

割り込み	ID ^{注1}		概要
	CR52 版	CA55 版	
HDSL13_INT	432	768	Ch13 EVENT_H レジスタ、EVENT_L レジスタの何れかのビットが"1"に更新されると割り込みが発生します。
HDSL13_INTS	433	769	Ch13 のショートメッセージを受信すると割り込みが発生します。
HDSL13_FPR	434	770	Ch13 の Fast position が読み出し可能になると割り込みが発生します。
HDSL13_SP	435	771	Ch13 の Safety position が読み出し可能になると割り込みが発生します。
HDSL14_INT	436	772	Ch14 EVENT_H レジスタ、EVENT_L レジスタの何れかのビットが"1"に更新されると割り込みが発生します。
HDSL14_INTS	437	773	Ch14 のショートメッセージを受信すると割り込みが発生します。
HDSL14_FPR	438	774	Ch14 の Fast position が読み出し可能になると割り込みが発生します。
HDSL14_SP	439	775	Ch14 の Safety position が読み出し可能になると割り込みが発生します。
HDSL15_INT	-	-	この割り込みは使われません。 ^{注2}
HDSL15_INTS	-	-	この割り込みは使われません。 ^{注2}
HDSL15_FPR	-	-	この割り込みは使われません。 ^{注2}
HDSL15_SP	-	-	この割り込みは使われません。 ^{注2}
PERI_ERR0	440	417	ENCIFERR_STATn (n=1~4)レジスタで、HDSL Ch0~Ch15 のエラーを示す何れかのビットが"1"に更新されると割り込みが発生します。

- 【注】
1. サンプルプログラムには、CPU コア Cortex-R52 で動作する CR52 版と、CPU コア Cortex-A55 で動作する CA55 版があります。CR52 版、CA55 版はそれぞれの版に関する説明です。
 2. 本サンプルプログラムでは、チャンネル 8, チャンネル 12, チャンネル 15 は無効です。HDSL8_INT, HDSL8_INTS, HDSL8_FPR, HDSL8_SP, HDSL12_INT, HDSL12_INTS, HDSL12_FPR, HDSL12_SP, HDSL15_INT, HDSL15_INTS, HDSL15_FPR, HDSL15_SP による割り込みは発生しません。

4.8 定数/エラーコード一覧

定数とエラーコードを示します。各定義については、それぞれの表を参照してください。

表 4-3 HFDSL ドライバで使用するユーザー定義の定数(r_hfdsl_rzt2_config.h)

定数名	設定値	内容
R_HFDSL_SYNC_CTRL	3	SYNC_CTRL レジスタの設定値
R_HFDSL_ACC_ERR	31	ACC_ERR レジスタの設定値
R_HFDSL_MASK_H	4Bh	MASK_H レジスタの設定値 ^{注1}
R_HFDSL_MASK_L	36h	MASK_L レジスタの設定値 ^{注1}
R_HFDSL_MASK_S	01h	MASK_S レジスタの設定値

【注】 1. R_HFDSL_MASK_H と R_HFDSL_MASK_L を変更する場合は、割り込みハンドラ hfdsl_int_isr_chn 関数の処理を、R_HFDSL_MASK_H と R_HFDSL_MASK_L の設定値に合わせて変更してください。

表 4-4 エラーコード

定数名	設定値	内容
R_HFDSL_SUCCESS	0	正常終了
R_HFDSL_ERR_INVALID_ARG	-1	引数異常
R_HFDSL_ERR_ACCESS	-2	API の実行順序エラー、レジスタへのアクセスエラー
R_HFDSL_ERR_INIT	-3	HFDSL、エンコーダの初期化に失敗

表 4.5 安全インタフェースのインタフェースモード

定数名	設定値	内容
R_HFDSL_SP_INTERNAL_BUS_MODE	0	内部バスモード
R_HFDSL_SP_SPI_MODE	1	SPI モード

4.9 固定幅整数一覧

表 4-6 にサンプルコードで使用する固定幅整数を示します。サンプルコードで使用する固定幅整数は、標準ライブラリで定義されています。

表 4-6 サンプルコードで使用する固定幅整数

シンボル	内容
int8_t	8 ビット整数、符号あり
int16_t	16 ビット整数、符号あり
int32_t	32 ビット整数、符号あり
int64_t	64 ビット整数、符号あり
uint8_t	8 ビット整数、符号なし
uint16_t	16 ビット整数、符号なし
uint32_t	32 ビット整数、符号なし
uint64_t	64 ビット整数、符号なし

4.10 構造体/共用体/列挙型一覧

主要な構造体/共用体/列挙型の一覧を記載します。

4.10.1 構造体

(1) r_hfdsl_info_t

HFDSSL ドライバの初期化情報。

```
typedef struct
{
    uint8_t          safe1_if_mode; 安全チャンネル1 インタフェースモード選択
                                (0 : 内部バスモード, 1 : SPIモード) 注1
    uint8_t          safe2_if_mode; 安全チャンネル2 インタフェースモード選択
                                (0 : 内部バスモード, 1 : SPIモード) 注1
    r_hfdsl_int_nml_cb_t  p_cb_nml;  HDSLn_FPR 割り込み発生時にコールされるコールバック
                                関数のポインタ
                                詳細は「4.5.1 hfdsl_int_nml_callback」を参照してくださ
                                い。注2 注3
    r_hfdsl_int_err_cb_t  p_cb_err;  HDSLn_INT 割り込み発生時にコールされるコールバック
                                関数のポインタ
                                詳細は「4.5.2 hfdsl_int_err_callback」を参照してくださ
                                い。注2
    r_hfdsl_int_safety_cb_t p_cb_safety; HDSLn_SP 割り込み発生時にコールされるコールバック
                                関数のポインタ
                                詳細は「4.5.3 hfdsl_int_safety_callback」を参照してくだ
                                さい。注2
} r_hfdsl_info_t
```

- 【注】
1. インタフェースモードに SPI モードを選択した場合には、サンプルプログラムから各安全チャンネルインタフェースレジスタへのアクセスが無効になります。SPI モードは、外部の CPU から SPI インタフェースを通じて安全チャンネルレジスタにアクセスするときに選択します。
 2. NULL を指定するとコールされません。
 3. EVENT_L レジスタの FREL ビットによる HDSLn_INT 割り込み発生時はコールされません。

(2) r_hfdsl_pos_t

Fast position の格納

```
typedef struct
{
    bool          all;      メンバ変数 posh 有効化の設定
                            (true : メンバ変数 posh が有効、
                            false : メンバ変数 posh が無効)
    uint8_t       posh;     Fast position の[39:32]ビットが格納されます。
                            メンバ変数 all が true だった場合に更新されます。
    uint32_t      pos;      Fast position の[31:0]ビットが格納されます。
} r_hfdsl_pos_t
```

(3) r_hfdsl_vpos_t

Safe position の格納

```
typedef struct
{
    uint8_t          vposh;    Safe position の[39:32]ビットが格納されます。
    uint32_t         vpos;     Safe position の[31:0]ビットが格納されます。
    uint16_t         crc;      Vertical channel の CRC が格納されます。
} r_hfdsl_vpos_t
```

(4) r_hfdsl_send_msg_t

メッセージ送信データを格納

```
typedef struct
{
    uint8_t          *p_data;  メッセージ送信データが格納された配列のポインタ
                           制御コマンド R_HFDSL_CMD_MSG とともに使用する場合は、
                           メッセージ送信データを格納する配列のポインタを設定してくだ
                           さい。
                           制御コマンド R_HFDSL_CMD_SMSG とともに使用する場合、
                           読み出し時は R_HFDSL_SMSG_READ と読み出しアドレスを格
                           納した配列のポインタを、書き込み時は
                           R_HFDSL_SMSG_WRITE と書き込みアドレスおよび書き込み
                           データを格納した配列のポインタを設定してください。
    r_hfdsl_msg_cb_t p_cb_msg; メッセージ受信時にコールされるコールバック関数のポインタ
                           詳細は「4.5.4 hfdsl_int_mrcv_callback」および「4.5.5
                           hfdsl_int_smrcv_callback」を参照してください。
                           制御コマンド R_HFDSL_CMD_MSG とともに使用する場合は
                           hfdsl_int_mrcv_callback のアドレスを、制御コマンド
                           R_HFDSL_CMD_SMSG とともに使用する場合、読み出し時は
                           hfdsl_int_smrcv_callback のアドレスを設定してください。
                           R_HFDSL_CMD_SMSG とともに使用する場合の書き込み時に
                           は、コールバックは発生しません。p_cb_msg には NULL を設定
                           してください。
} r_hfdsl_send_msg_t
```

4.10.2 共用体

使用しません。

4.10.3 列挙型

使用しません。

4.11 サンプルプログラムの説明

4.11.1 動作概要

本サンプルプログラムは HIPERFACE DSL 通信プロトコル仕様に準拠したエンコーダ (SICK AG 社製 EDM35-2KF0A020A) に対応しています。本サンプルプログラムは以下の処理を行います。

- 1) コンソールから入力したコマンドで下記の情報を表示
 - A) Fast position と Safe position
 - B) モータの回転速度
 - C) ロングメッセージの送受信結果 (Resources の Type of encoder)
 - D) Vertical channel data
 - E) ショートメッセージによる取得ステータス(ENC_ST0)
- 2) SYNC モードで動作
- 3) プロトコルリセットが発生した場合は、本サンプルプログラムを終了します。

(1) システムブロック図

図 4-1 にシステムブロック図を示します。

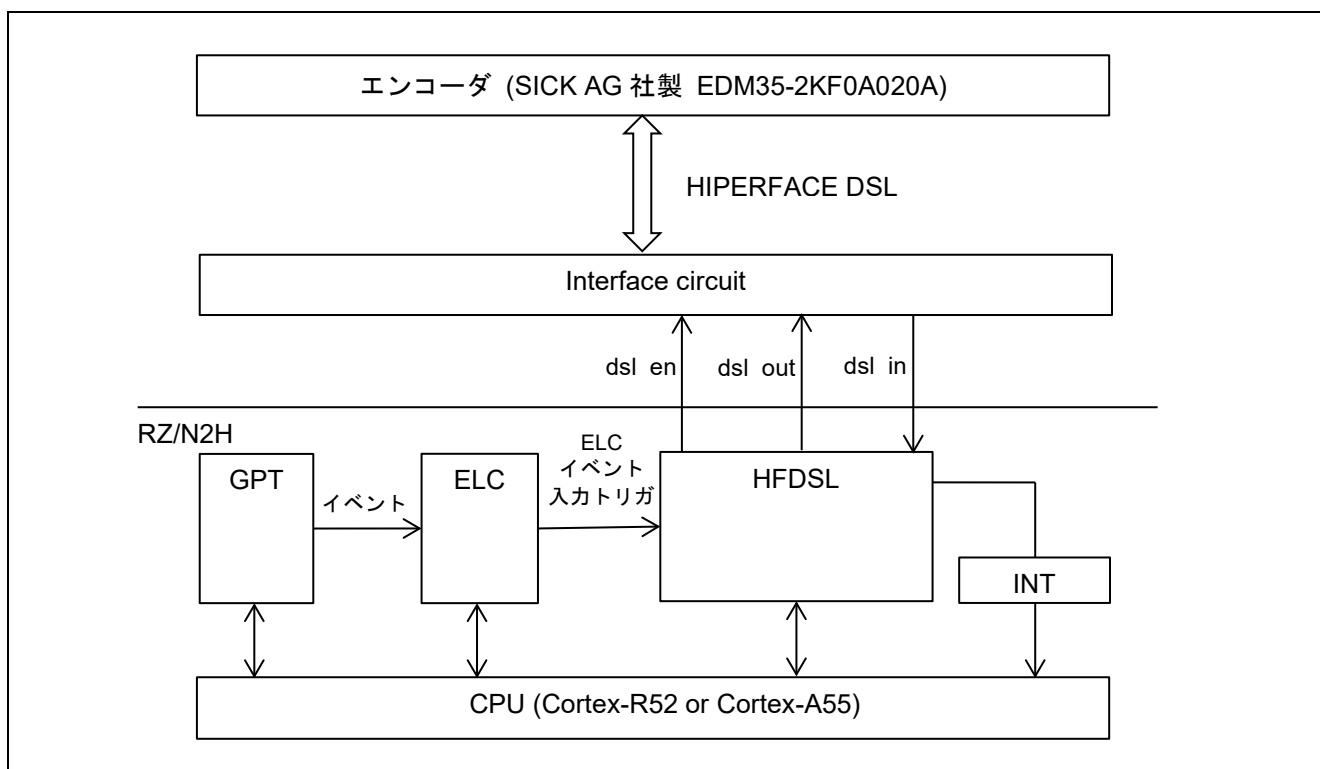


図 4-1 システムブロック図

(2) ソフトウェア構成図

図 4-2 にソフトウェア構成図を示します。

HFDSL ドライバには、R_HFDSL_Open 関数で構成される開始処理部、R_HFDSL_Close 関数で構成される終了処理部、R_HFDSL_Control 関数で構成されるプロトコル初期化、位置値取得、メッセージ送信部、コールバック関数で構成されるデータ受信部分（割り込みハンドラ）があります。

サンプルプログラムには、HFDSL ドライバを制御し、位置値取得、メッセージの送信を行う HFDSL ドライバ制御部分、データ受信結果の表示を行う結果表示部分（コールバック）があります。

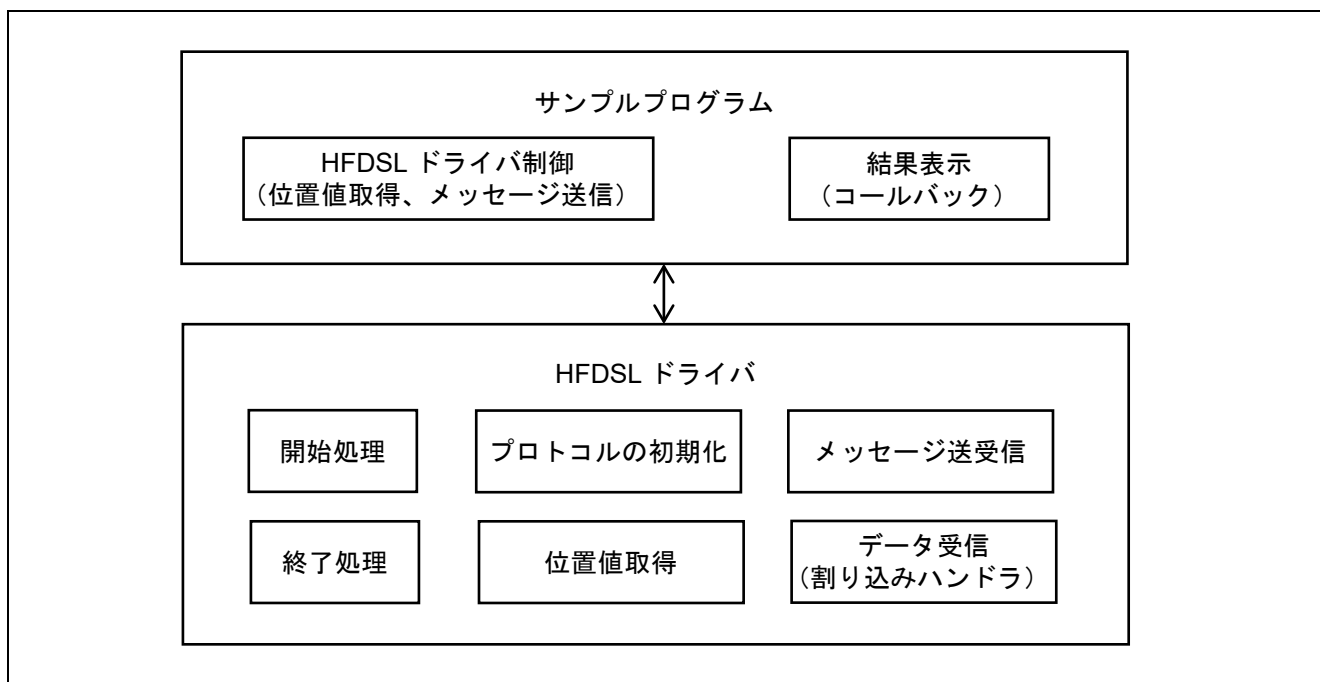


図 4-2 ソフトウェア構成図

4.11.2 サンプルプログラムの変数一覧

表 4-7 に主要な static 型変数を示します。

表 4-7 主要な static 型変数

型	変数名	内容
bool	mrcv_flg	メッセージ送受信完了フラグ (true : メッセージの送受信が完了、 false : メッセージが送受信中)
bool	prst_found	プロトコルリセット warning 検出フラグ (true : プロトコルリセット warning を検出した、 false : プロトコルリセット warning を検出していない)
uint32_t	err_info	HDSLn_INT 割り込み発生要因を格納します。
uint32_t	pos_rot	Fast position の回転数を格納します。
uint32_t	pos_res	Fast position の角度を格納します。
bool	vpos_valid	Safe position 読み出し結果の有効/無効を格納します。
uint32_t	vpos_rot	Safe position の回転数を格納します。
uint32_t	vpos_res	Safe position の角度を格納します。
uint32_t	vel	モータの回転速度を格納します。
uint8_t	lmsg_rcv[LMSG_RECV_SIZE]	ロングメッセージの受信データを格納します。
uint8_t	smsg_rcv	ショートメッセージの受信データを格納します。
bool	safety1_valid	Safety channel 1 データ読み出し結果の有効/無効を格納します。
bool	safety2_valid	Safety channel 2 データ読み出し結果の有効/無効を格納します。
uint8_t	safety1[SAFETY_CNT_MAX]	Safety channel 1 受信データを格納します。
uint8_t	safety2[SAFETY_CNT_MAX]	Safety channel 2 受信データを格納します。

4.11.3 サンプルプログラムの定数一覧

表 4-8 にサンプルプログラムで使用する主要な定数を示します。

表 4-8 主要な定数

定数名	設定値	内容
ENC_ID	00000153h	EDM35-2KF0A020A のエンコーダ ID 注1注2
RES_BIT	0	POS4~0 レジスタの位置情報の最下位ビット位置 注1
RES_MASK	000FFFFFFh	POS3~0 レジスタの位置情報のマスク 注1
RES_MASK_H	00000000h	POS4 レジスタの位置情報のマスク 注1
ROT_BIT	20	POS4~0 レジスタの回転数情報の最下位ビット位置 注1
ROT_MASK	00000FFFh	POS3~0 レジスタの回転数のマスク 注1
ROT_MASK_H	00000000h	POS4 レジスタの回転数のマスク 注1
LMSG_RECV_SIZE	10	ロングメッセージの最大受信データサイズ
SAFETY_CNT_MAX	8	Safety channel 1, 2 の格納データサイズ
TIMEOUT_UNIT	1000	タイムアウト単位設定(1ms)
TIMEOUT_COUNT	1000	タイムアウト設定(1ms x 1000)
INIT_RETRY_COUNT	10	初期化エラーリトライ回数

- 【注】 1. 本サンプルプログラムを EDM35-2KF0A020A 以外のエンコーダで動作させる場合は、接続したエンコーダに合わせて、設定値を変更してください。
 2. 詳細は「HIPERFACE DSL® MASTER Safety Integration Manual」を参照してください。

下記に位置情報と回転情報を格納する仕組みを示します。

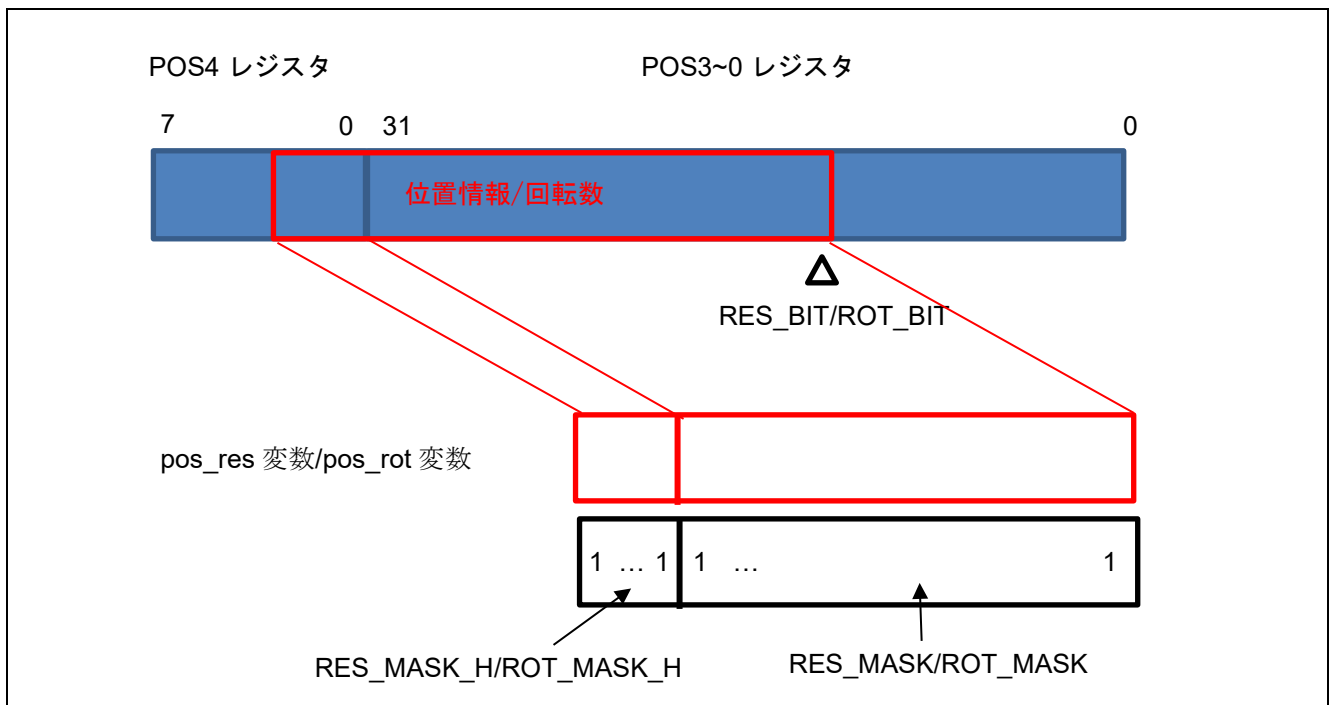


図 4-3 位置情報と回転情報を格納する仕組み

4.11.4 メイン処理のフローチャート

以下に主要な処理を行うものについてフローチャートを記載します。

図中の※がついている処理は別途フローチャートに記載しています。

(1) enc_main フローチャート

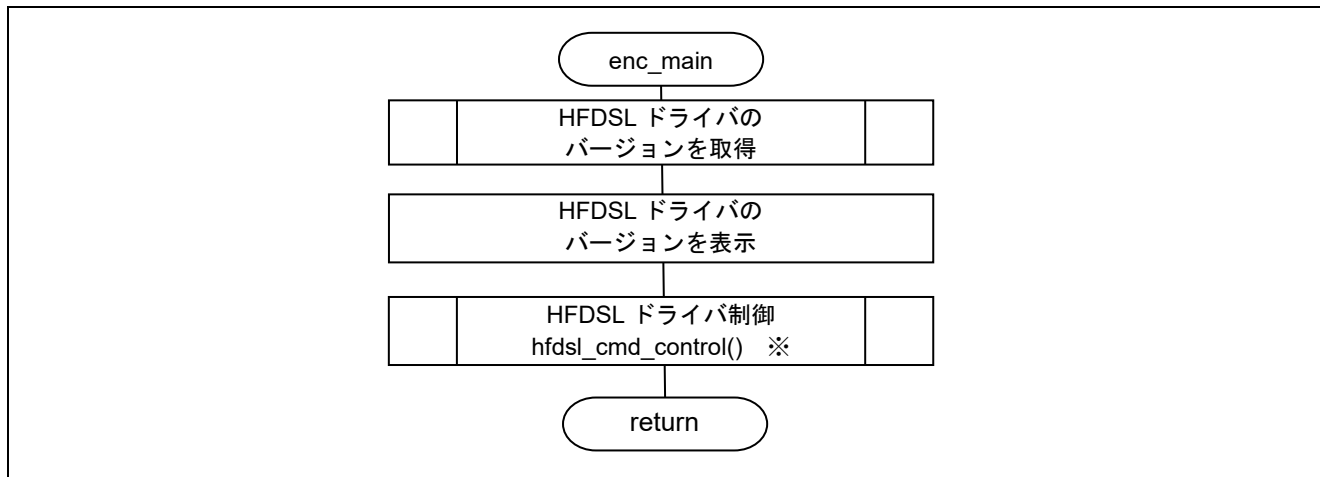
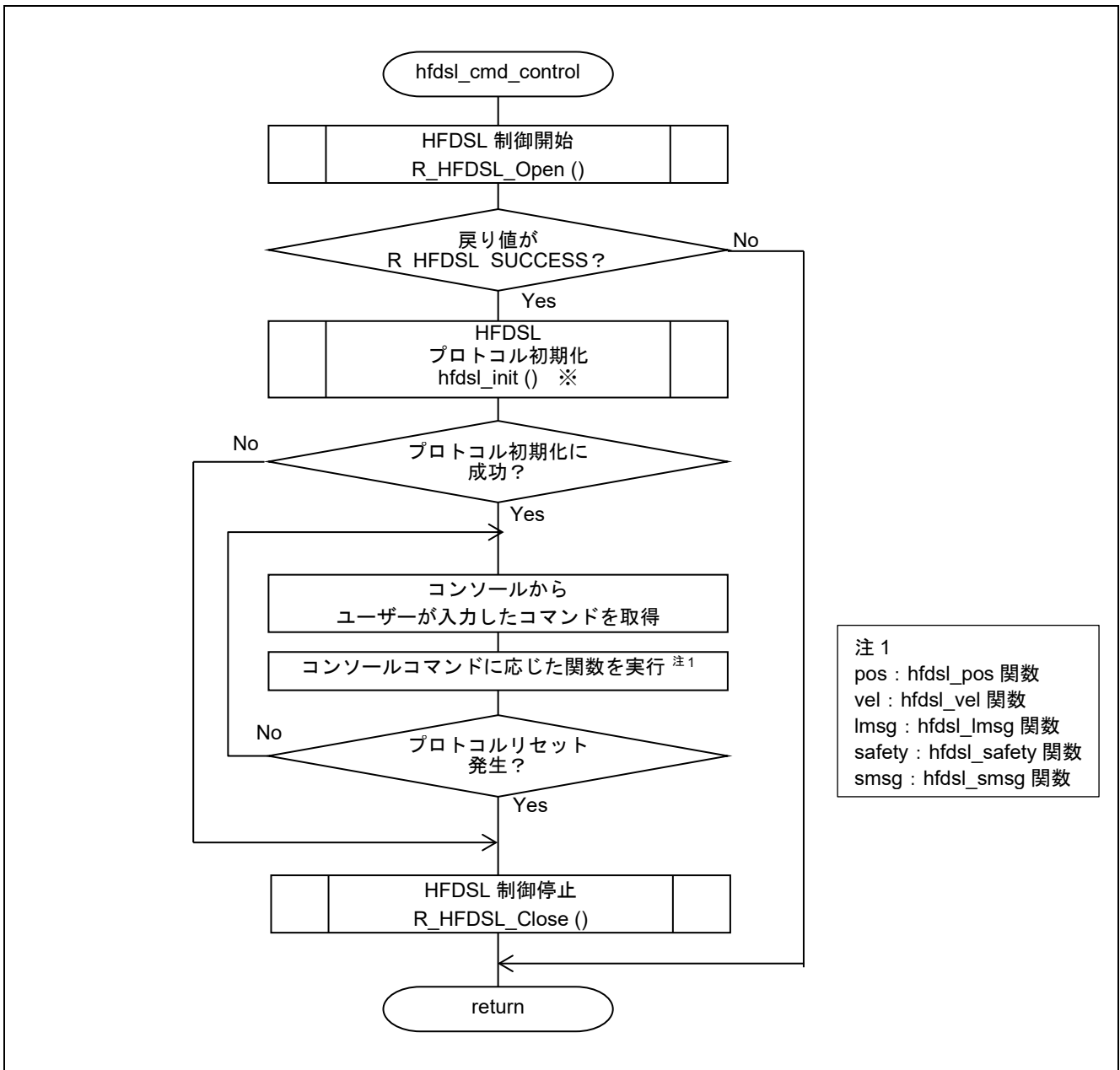


図 4-4 enc_main 関数のフローチャート

(2) hfdsl_cmd_control フローチャート



注 1
 pos : hfdsl_pos 関数
 vel : hfdsl_vel 関数
 lmsg : hfdsl_lmsg 関数
 safety : hfdsl_safety 関数
 smsg : hfdsl_smsg 関数

図 4-5 hfdsl_cmd_control 関数のフローチャート

(3) hfdsl_init フローチャート

プロトコルの初期化を行います。

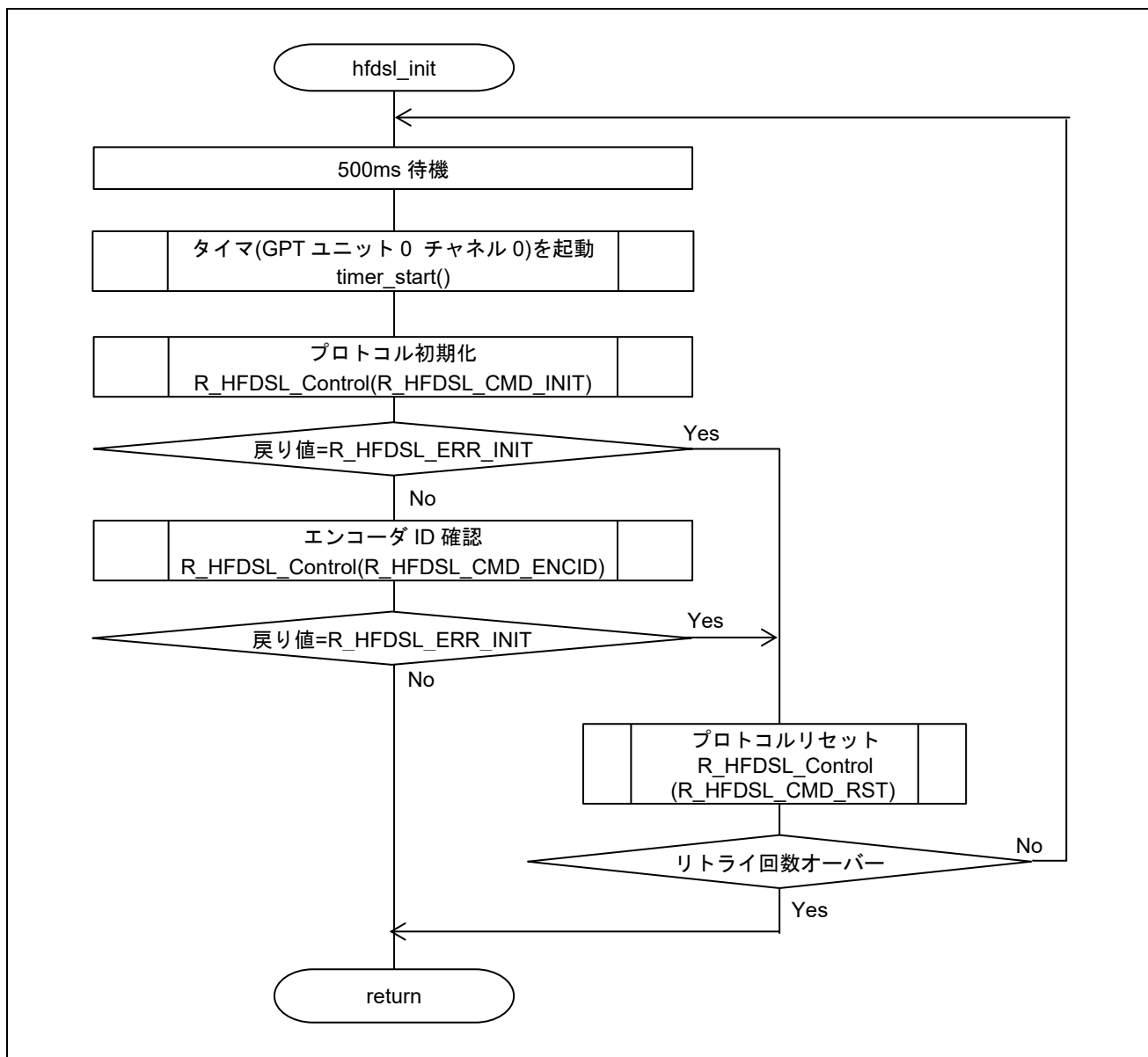


図 4-6 hfdsl_init 関数のフローチャート

(4) hfdsl_pos、hfdsl_vel、hfdsl_safety フローチャート

コンソールコマンド “pos”, “vel”, “safety” を入力した際にそれぞれ実行され、取得したデータを表示する関数です。各コンソールコマンドと対応する関数と表示内容を以下に示します。

表 4-9 コンソールコマンド “pos”, “vel”, “safety” に対応する関数

コンソールコマンド	対応する関数	表示内容
pos	hfdsl_pos 関数	pos_rot、pos_res vpos_rot、vpos_res err_info
vel	hfdsl_vel 関数	vel、err_info
safety	hfdsl_safety 関数	safety1、safety2

hfdsl_pos 関数、hfdsl_vel 関数、hfdsl_safety 関数のフローチャートは同様の処理のため、同一のフローチャートに記載します。

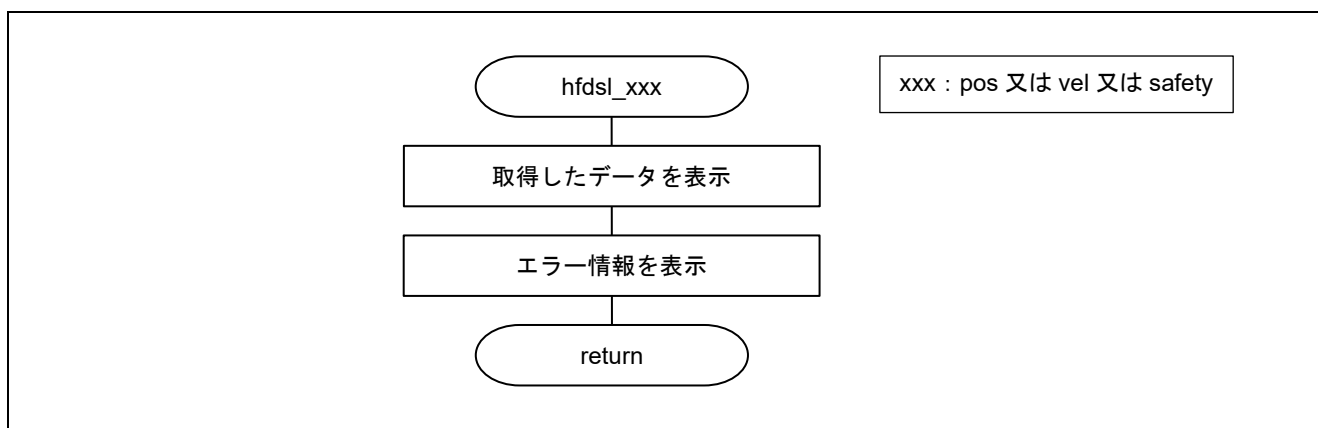


図 4-7 hfdsl_pos 関数、hfdsl_vel 関数、hfdsl_safety 関数のフローチャート

(5) hfdsl_lmsg フローチャート

コンソールコマンド” lmsg” 入力時に実行される関数です。

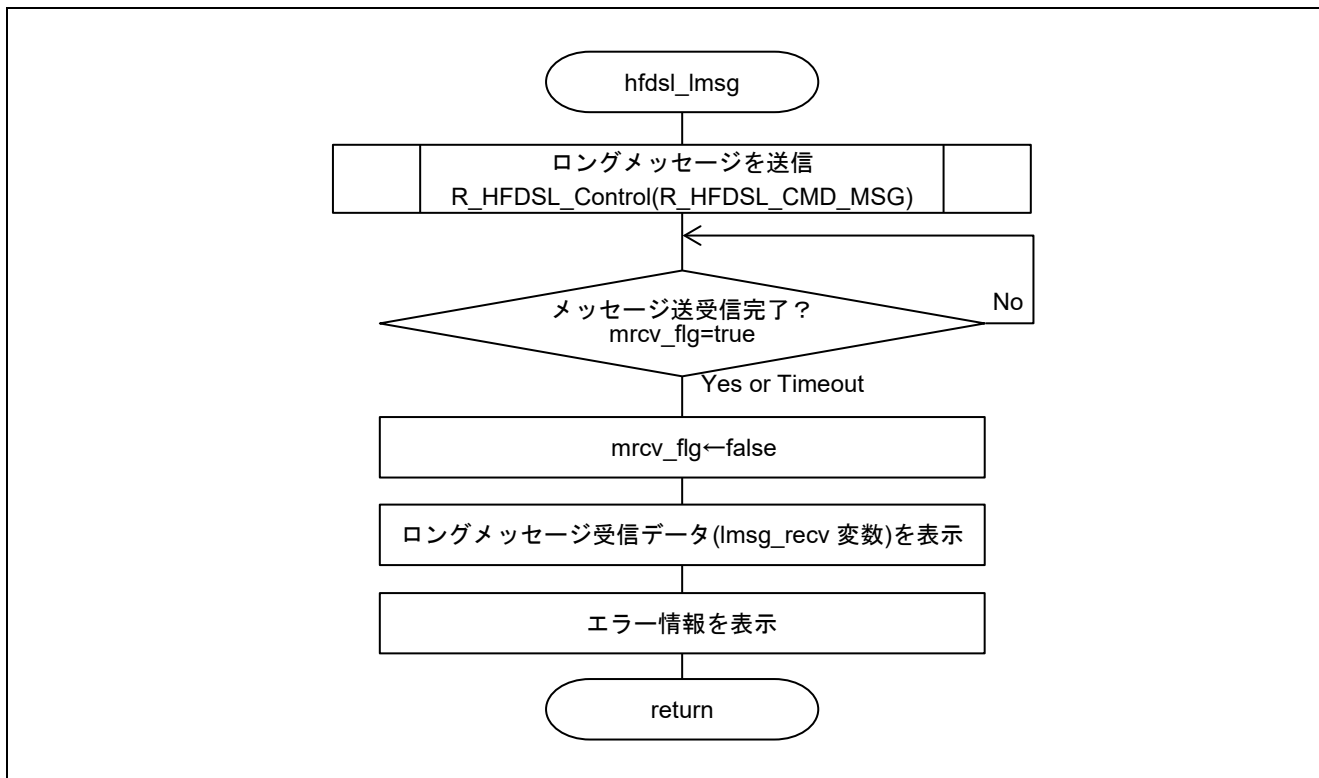


図 4-8 hfdsl_lmsg 関数のフローチャート

(6) hfdsl_smsg フローチャート

コンソールコマンド” smsg” 入力時に実行される関数です。

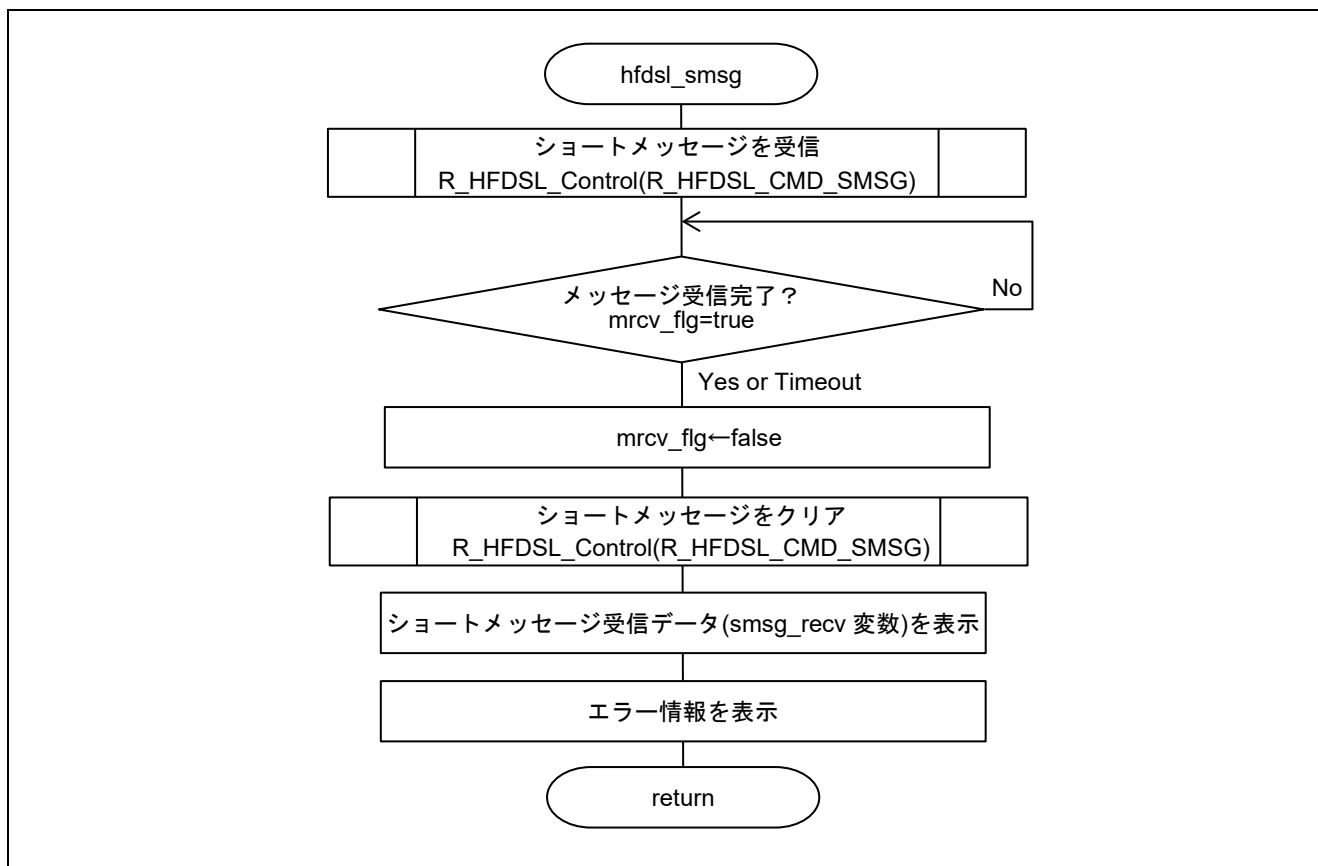


図 4-9 hfdsl_smsg 関数のフローチャート

(7) hfdsl_int_nml_callback フローチャート

HDSLn_FPR 割り込み発生時にコールされるコールバック関数です。

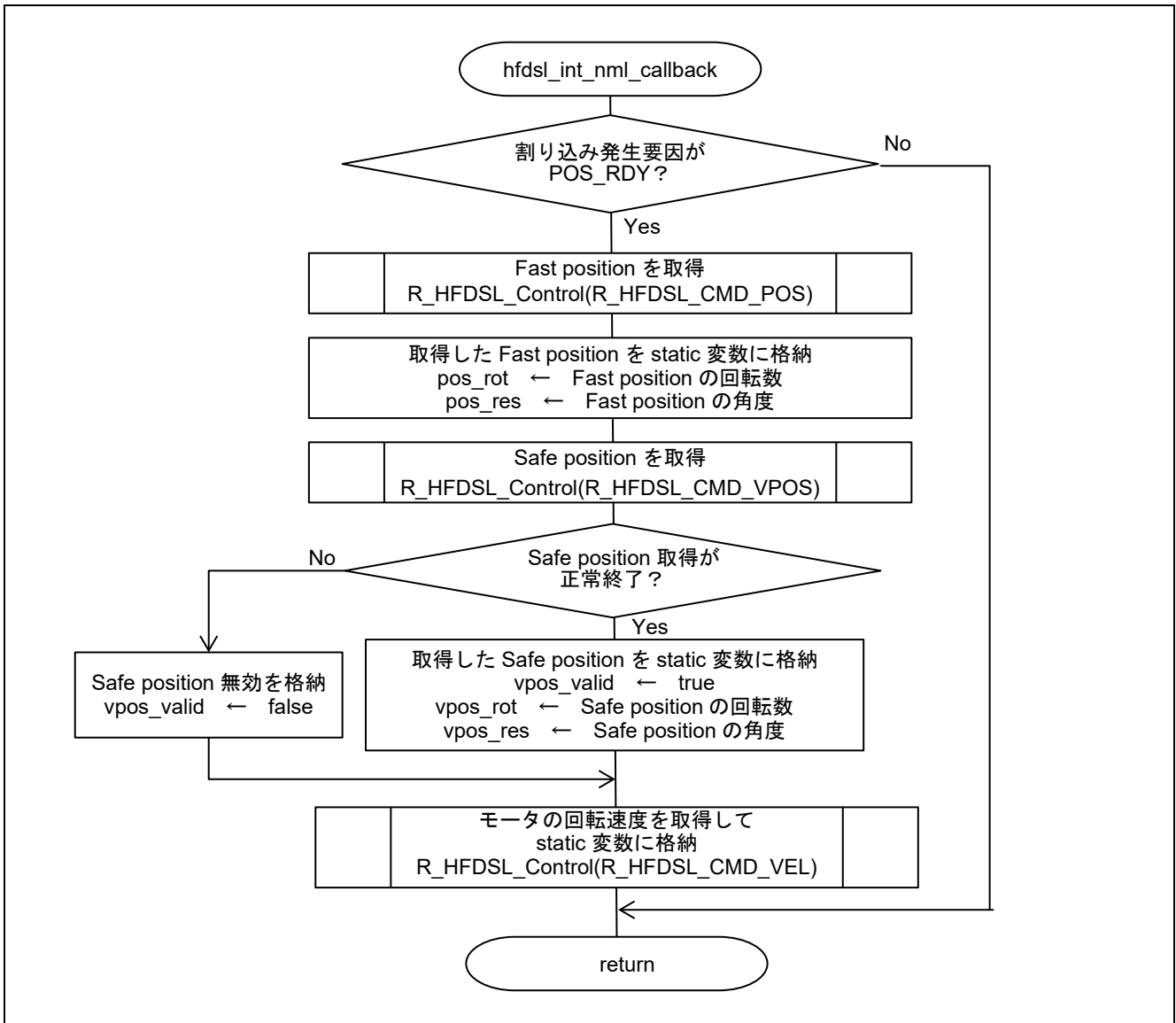


図 4-10 hfdsl_int_nml_callback 関数のフローチャート

(8) hfdsl_int_err_callback フローチャート

HDSLn_INT 割り込み発生時にコールされるコールバック関数です。

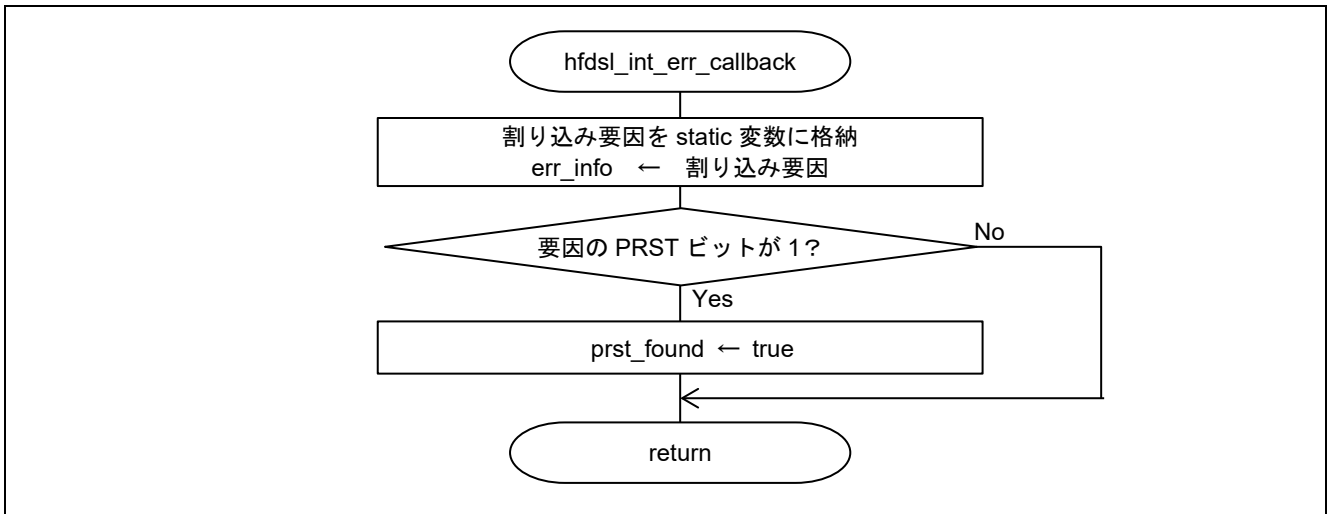


図 4-11 hfdsl_int_err_callback 関数のフローチャート

(9) hfdsl_int_safety_callback フローチャート

HDSLn_SP 割り込み発生時にコールされるコールバック関数です。

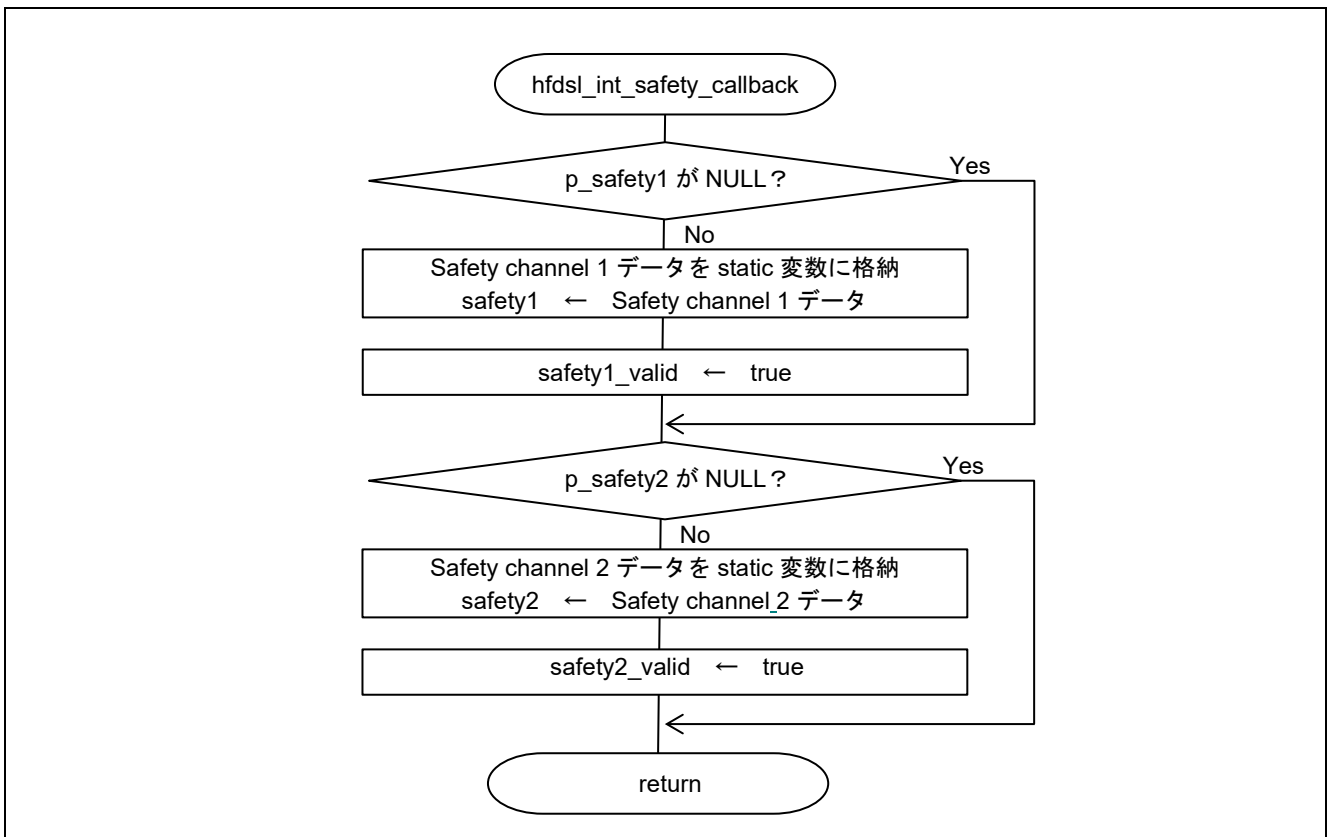


図 4-12 hfdsl_int_safety_callback 関数のフローチャート

(10) hfdsl_int_mrcv_callback フローチャート

EVENT_L レジスタの FREL ビットによる HDSL_n_INT 割り込みが発生し、受信メッセージのデータ格納が完了した時にコールされるコールバック関数です。

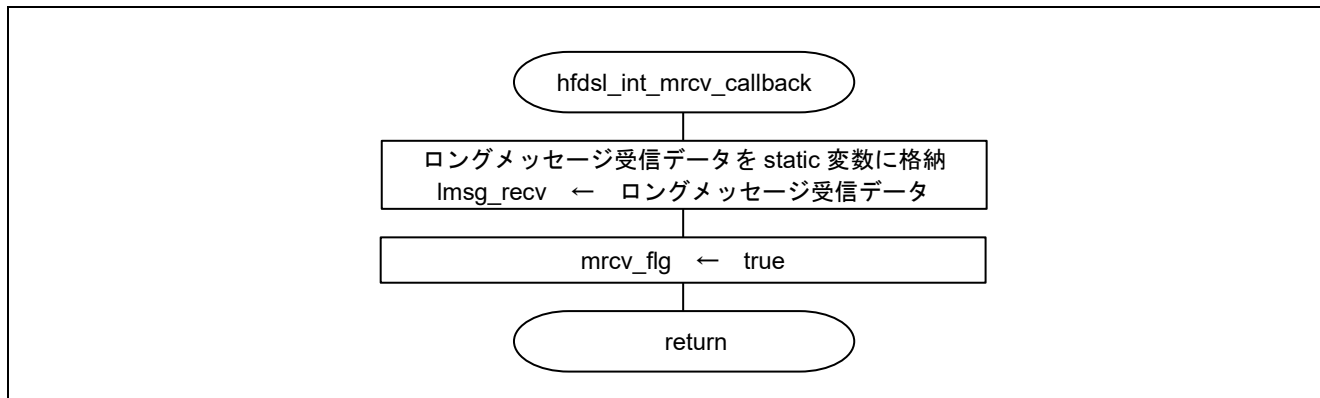


図 4-13 hfdsl_int_mrcv_callback 関数のフローチャート

(11) hfdsl_int_smrcv_callback フローチャート

EVENT_S レジスタの FRES ビットによる HDSL_n_INTS 割り込みが発生し、受信メッセージのデータ格納が完了した時にコールされるコールバック関数です。

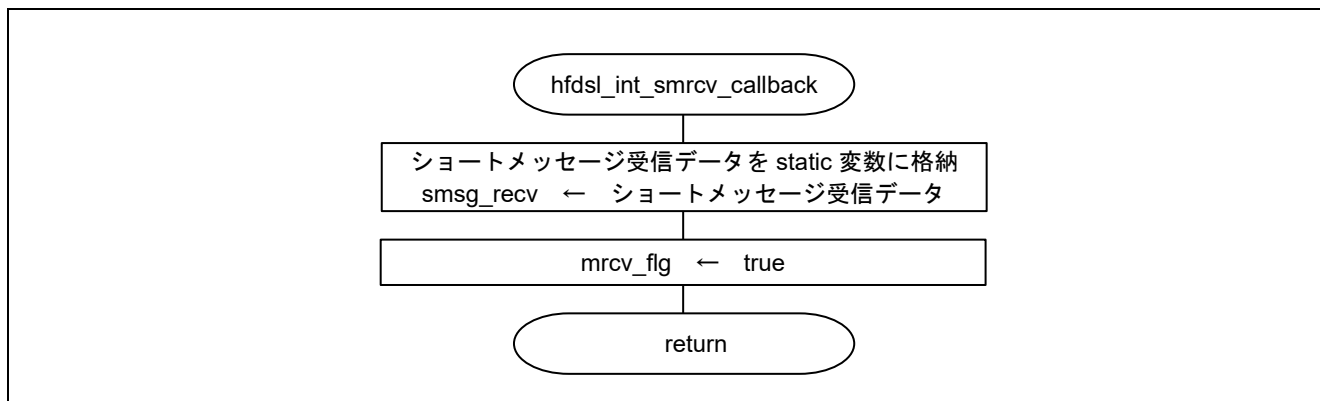


図 4-14 hfdsl_int_smrcv_callback 関数のフローチャート

4.11.5 動作シーケンス

(1) 開始シーケンス

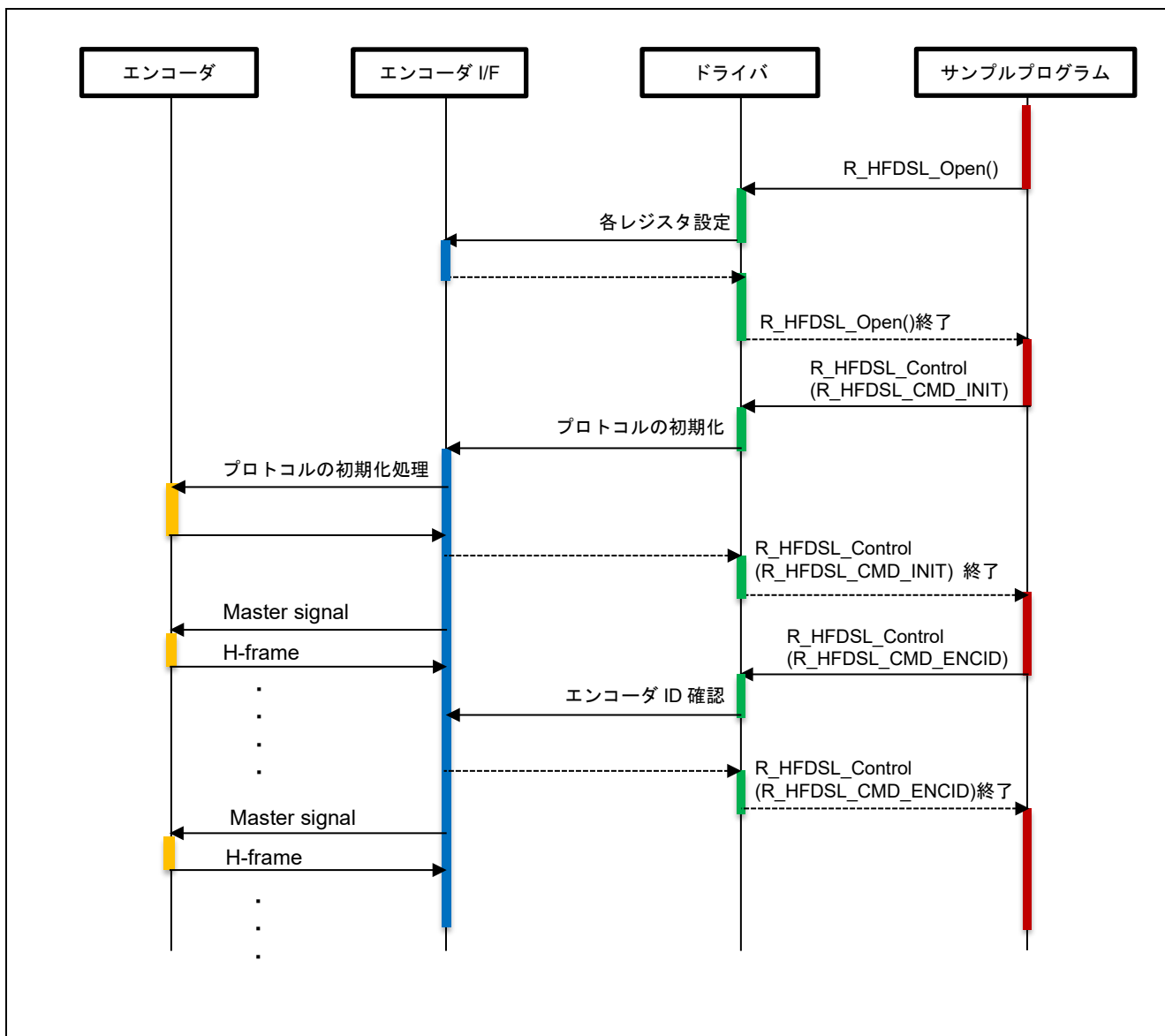


図 4-15 開始シーケンス図

(2) SYNC モードの Fast position 取得シーケンス

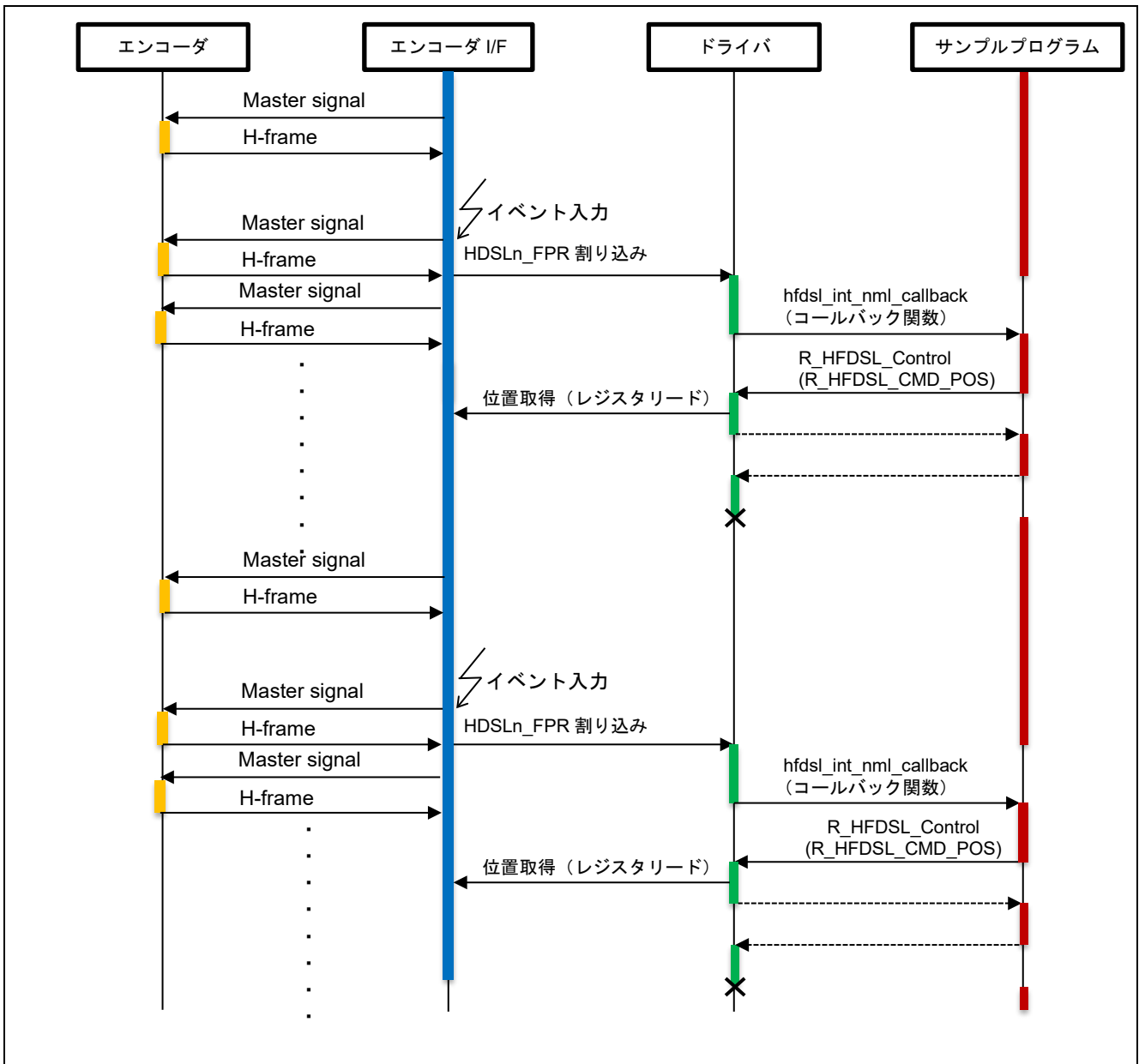


図 4-16 SYNC モードの Fast position 取得のシーケンス図

(3) Safety channel データ取得シーケンス

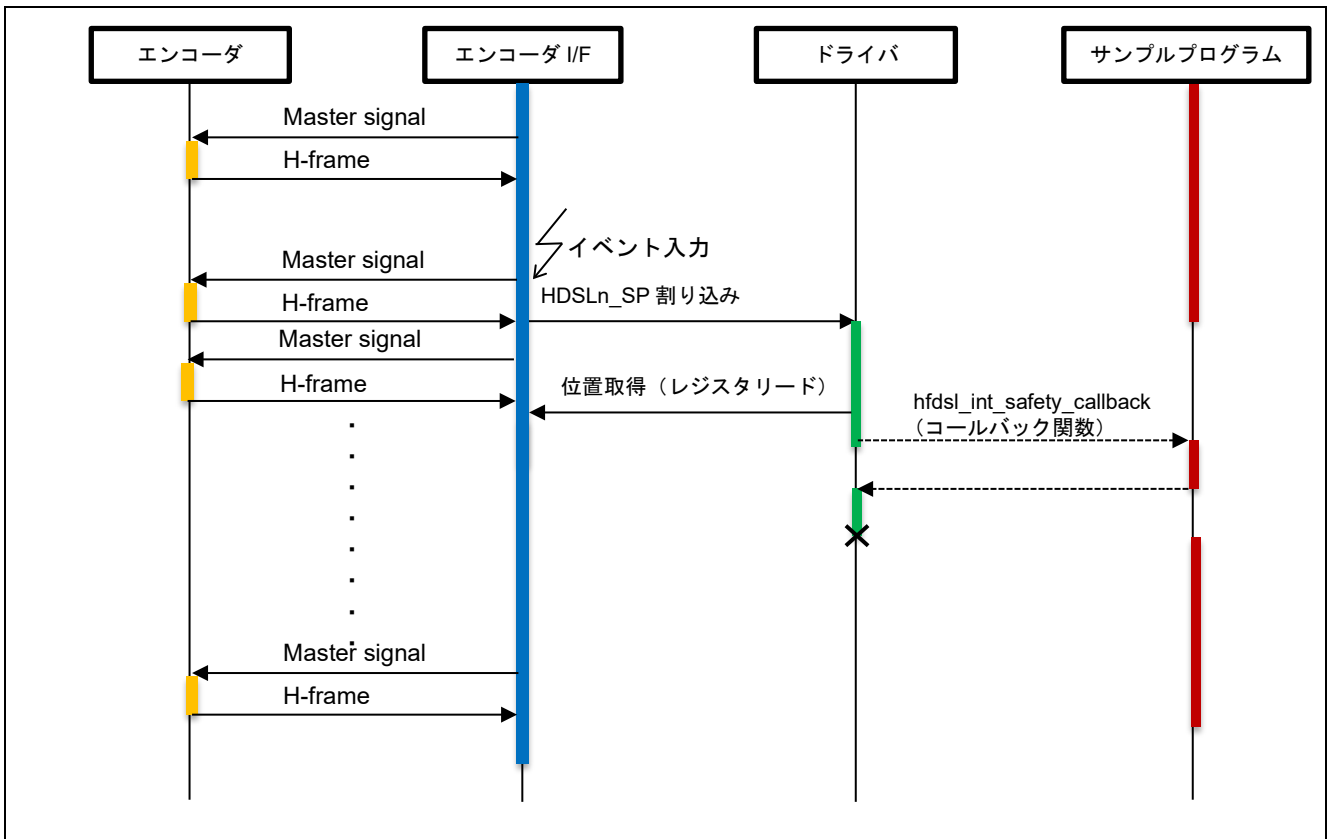


図 4-17 Safety channel データ取得のシーケンス図

(4) メッセージ送受信シーケンス

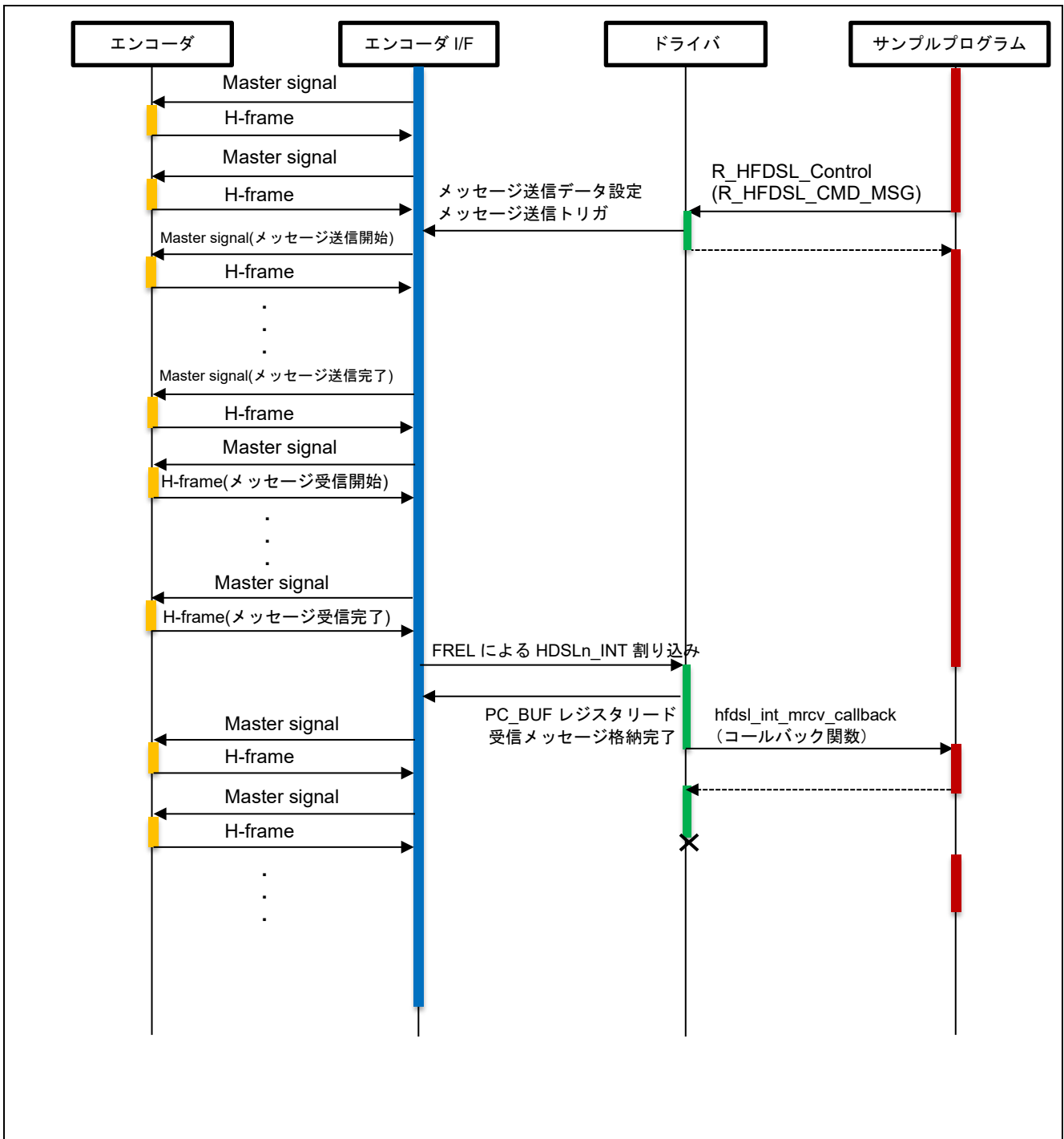


図 4-18 メッセージ送受信シーケンス図

(5) 停止シーケンス

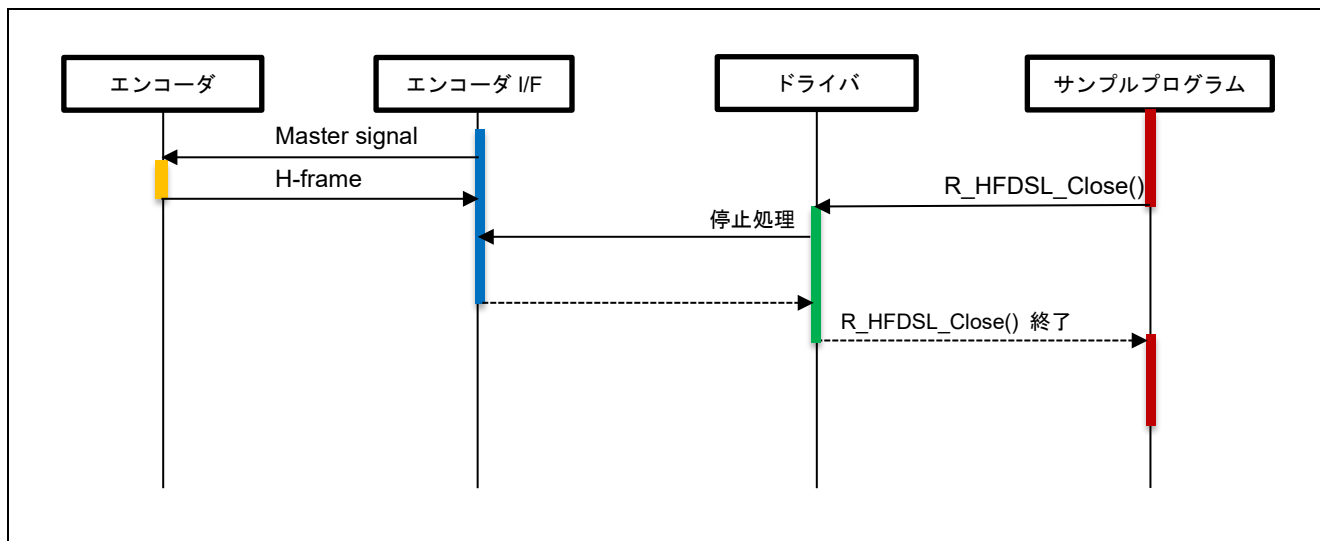


図 4-19 停止シーケンス図

4.11.6 コンソールコマンド

コンソールから入力可能なコマンドは以下となります。

表 4-10 コンソールコマンド一覧

コマンド	内容
pos	Fast position、Safe position を表示します。
vel	モータの回転速度を表示します。
lmsg	エンコーダの Resources の Type of encoder をロングメッセージで取得します。
safety	安全チャネル 1, 2 の受信データを表示します。
smsg	エンコーダのステータス ENC_ST0 をショートメッセージで取得し、その後ステータスをクリアします。

(1) サンプルプログラム実行

プログラムを実行すると、バージョンに続いてコマンドプロンプトが表示されます。"hfDSL >"に続けてコマンドを入力してください。

```
HFDSL Safety sample program start
R_HFDSL_GetVersion = 4.0

hfDSL >
```

(2) pos コマンド

Fast position: hfDSL_int_nml_callback での R_HFDSL_CMD_POS の結果が表示されます。

Safe position: hfDSL_int_nml_callback での R_HFDSL_CMD_VPOS の結果が表示されます。^注

Error information: hfDSL_int_err_callback の結果が表示されます。

```
hfDSL >pos
Fast position
  Rotations   : 0x00000F76
  Angle       : 0x00067938
Safe position
  Rotations   : 0x00000F76
  Angle       : 0x000679EA
Error information
  EVENT_ERR   : 0x00000000
```

【注】 R_HFDSL_Open 関数の引数 p_info で、安全チャネル1 インタフェースモードを SPI モードとした場合には、安全チャネル1 インタフェースレジスタへのアクセスが無効になります。Safe position の値は - と表示されます。

(3) vel コマンド

Motor rotation speed: hfds1_int_nml_callback での R_HFDSL_CMD_VEL の結果が表示されます。

Error information: hfds1_int_err_callback の結果が表示されます。

```
hfds1 >vel
Motor rotation speed
  Speed      : 0x00000026
Error information
  EVENT_ERR  : 0x00000000
```

(4) lmsg コマンド

Message address: ログメッセージのメッセージアドレスが表示されます。

Received data: hfds1_int_mrcv_callback の結果が表示されます。

Error information: hfds1_int_err_callback の結果が表示されます。

```
hfds1 >lmsg
Message address
  PC_ADD_H  : 0x54
  PC_ADD_L  : 0x80
Received data
  PCBUF[0]  : 0x00
  PCBUF[1]  : 0x02
Error information
  EVENT_ERR  : 0x00000000
```

(5) safety コマンド

SAFETY POSITION 1 data: hfds1_int_safety_callback での安全チャネル 1 の結果が表示されます。注

SAFETY POSITION 2 data: hfds1_int_safety_callback での安全チャネル 2 の結果が表示されます。注

それぞれ、data はレジスタデータ、Rotations、Angle は変換後の値です。

```
hfds1 >safety
SAFETY POSITION 1 data
  Rotations  : 0x00000F76
  Angle      : 0x00078902
  data       : 0x05 0x00 0xF7 0x67 0x89 0x02 0x42 0x12
SAFETY POSITION 2 data
  Rotations  : 0x00000F76
  Angle      : 0x000788C0
  data       : 0x9C 0xFF 0x08 0x98 0x77 0x3F 0x3D 0x9E
```

【注】 R_HFDSL_Open 関数の引数 p_info で、安全チャネル 1 インタフェースモードや安全チャネル 2 インタフェースモードを SPI モードとした場合には、それぞれの安全チャネルインタフェースレジスタへのアクセスが無効になります。SAFETY POSITION 1 data や SAFETY POSITION 2 data の値も - と表示されます。

(6) smsg コマンド

Message address: ショートメッセージのアドレスと取得データが表示されます。

Error information: hfds1_int_err_callback の結果が表示されます。

```
hfds1 >smsg
Message address
  ENC_STn      : 0x40
  S_PC_DATA    : 0x01
Error information
  EVENT_ERR    : 0x00000000
```

5. サンプルコード

サンプルコードは、ルネサス エレクトロニクスホームページから入手してください。

改訂記録

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
2.00	Dec.23.24	-	初版発行
3.00	Nov 14.25	1, 3, 4 3, 27	商標の説明の記載方法を更新 HIPERFACE DSL MASTER Safety Integration Manual の注記を更新
4.00	May 08.26	4 8 - 15, 22, 23 14 - 16 27	Cortex-A55 Core0 の周波数を 1200MHz に変更 ポインタ変数のプレフィクスを” p_” に変更 「4.5 ユーザー定義関数仕様」のヘッダ部分を修正 図 4-3 位置情報の変数名を修正

製品ご使用上の注意事項

ここでは、マイコン製品全体に適用する「使用上の注意事項」について説明します。個別の使用上の注意事項については、本ドキュメントおよびテクニカルアップデートを参照してください。

1. 静電気対策

CMOS 製品の取り扱いの際は静電気防止を心がけてください。CMOS 製品は強い静電気によってゲート絶縁破壊を生じることがあります。運搬や保存の際には、当社が出荷梱包に使用している導電性のトレーやマガジンケース、導電性の緩衝材、金属ケースなどを利用し、組み立て工程にはアースを施してください。プラスチック板上に放置したり、端子を触ったりしないでください。また、CMOS 製品を実装したボードについても同様の扱いをしてください。

2. 電源投入時の処置

電源投入時は、製品の状態は不定です。電源投入時には、LSI の内部回路の状態は不確定であり、レジスタの設定や各端子の状態は不定です。外部リセット端子でリセットする製品の場合、電源投入からリセットが有効になるまでの期間、端子の状態は保証できません。同様に、内蔵パワーオンリセット機能を使用してリセットする製品の場合、電源投入からリセットのかかる一定電圧に達するまでの期間、端子の状態は保証できません。

3. 電源オフ時における入力信号

当該製品の電源がオフ状態のときに、入力信号や入出力プルアップ電源を入れしないでください。入力信号や入出力プルアップ電源からの電流注入により、誤動作を引き起こしたり、異常電流が流れ内部素子を劣化させたりする場合があります。資料中に「電源オフ時における入力信号」についての記載のある製品は、その内容を守ってください。

4. 未使用端子の処理

未使用端子は、「未使用端子の処理」に従って処理してください。CMOS 製品の入力端子のインピーダンスは、一般に、ハイインピーダンスとなっています。未使用端子を開放状態で動作させると、誘導現象により、LSI 周辺のノイズが印加され、LSI 内部で貫通電流が流れたり、入力信号と認識されて誤動作を起こす恐れがあります。

5. クロックについて

リセット時は、クロックが安定した後、リセットを解除してください。プログラム実行中のクロック切り替え時は、切り替え先クロックが安定した後に切り替えてください。リセット時、外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックで動作を開始するシステムでは、クロックが十分安定した後、リセットを解除してください。また、プログラムの途中で外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックに切り替える場合は、切り替え先のクロックが十分安定してから切り替えてください。

6. 入力端子の印加波形

入力ノイズや反射波による波形歪みは誤動作の原因になりますので注意してください。CMOS 製品の入力がノイズなどに起因して、 V_{IL} (Max.) から V_{IH} (Min.) までの領域にとどまるような場合は、誤動作を引き起こす恐れがあります。入力レベルが固定の場合はもちろん、 V_{IL} (Max.) から V_{IH} (Min.) までの領域を通過する遷移期間中にチャタリングノイズなどが入らないように使用してください。

7. リザーブアドレス（予約領域）のアクセス禁止

リザーブアドレス（予約領域）のアクセスを禁止します。アドレス領域には、将来の拡張機能用に割り付けられている リザーブアドレス（予約領域）があります。これらのアドレスをアクセスしたときの動作については、保証できませんので、アクセスしないようにしてください。

8. 製品間の相違について

型名の異なる製品に変更する場合は、製品型名ごとにシステム評価試験を実施してください。同じグループのマイコンでも型名が違えば、フラッシュメモリ、レイアウトパターンの相違などにより、電気的特性の範囲で、特性値、動作マージン、ノイズ耐量、ノイズ輻射量などが異なる場合があります。型名が違う製品に変更する場合は、個々の製品ごとにシステム評価試験を実施してください。

- HIPERFACE DSL is a registered trademark of SICK AG.
- IAR Embedded Workbench is a registered trademark of IAR Systems.
- Arm and Cortex are registered trademarks of Arm Limited (or its subsidiaries) in the EU and/or elsewhere. All rights reserved.
- Additionally all product names and service names in this document are a trademark or a registered trademark which belongs to the respective owners.

ご注意書き

1. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合、お客様の責任において、お客様の機器・システムを設計ください。これらの使用に起因して生じた損害（お客様または第三者いずれに生じた損害も含まれます。以下同じです。）に関し、当社は、一切その責任を負いません。
2. 当社製品または本資料に記載された製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズム、応用回路例等の情報の使用に起因して発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権に対する侵害またはこれらに関する紛争について、当社は、何らの保証を行うものではなく、また責任を負うものではありません。
3. 当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
4. 当社製品を組み込んだ製品の輸出入、製造、販売、利用、配布その他の行為を行うにあたり、第三者保有の技術の利用に関するライセンスが必要となる場合、当該ライセンス取得の判断および取得はお客様の責任において行ってください。
5. 当社製品を、全部または一部を問わず、改造、変更、複製、リバースエンジニアリング、その他、不適切に使用しないでください。かかる改造、変更、複製、リバースエンジニアリング等により生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
6. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」および「高品質水準」に分類しており、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使用されることを意図しております。

標準水準： コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット等

高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通管制（信号）、大規模通信機器、金融端末基幹システム、各種安全制御装置等

当社製品は、データシート等により高信頼性、Harsh environment 向け製品と定義しているものを除き、直接生命・身体に危害を及ぼす可能性のある機器・システム（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの等）、もしくは多大な物的損害を発生させるおそれのある機器・システム（宇宙機器と、海底中継器、原子力制御システム、航空機制御システム、プラント基幹システム、軍事機器等）に使用されることを意図しておらず、これらの用途に使用することは想定していません。たとえ、当社が想定していない用途に当社製品を使用したことにより損害が生じても、当社は一切その責任を負いません。

7. あらゆる半導体製品は、外部攻撃からの安全性を 100%保証されているわけではありません。当社ハードウェア/ソフトウェア製品にはセキュリティ対策が組み込まれているものもありますが、これによって、当社は、セキュリティ脆弱性または侵害（当社製品または当社製品が使用されているシステムに対する不正アクセス・不正使用を含みますが、これに限られません。）から生じる責任を負うものではありません。当社は、当社製品または当社製品が使用されたあらゆるシステムが、不正な改変、攻撃、ウイルス、干渉、ハッキング、データの破壊または窃盗その他の不正な侵入行為（「脆弱性問題」といいます。）によって影響を受けないことを保証しません。当社は、脆弱性問題に起因したまたはこれに関連して生じた損害について、一切責任を負いません。また、法令において認められる限りにおいて、本資料および当社ハードウェア/ソフトウェア製品について、商品性および特定目的との合致に関する保証ならびに第三者の権利を侵害しないことの保証を含め、明示または黙示のいかなる保証も行いません。
8. 当社製品をご使用の際は、最新の製品情報（データシート、ユーザーズマニュアル、アプリケーションノート、信頼性ハンドブックに記載の「半導体デバイスの使用上の一般的な注意事項」等）をご確認の上、当社が指定する最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他指定条件の範囲内でご使用ください。指定条件の範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障、誤動作の不具合および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めていますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は、データシート等において高信頼性、Harsh environment 向け製品と定義しているものを除き、耐放射線設計を行っておりません。仮に当社製品の故障または誤動作が生じた場合であっても、人身事故、火災事故その他社会的損害等を生じさせないよう、お客様の責任において、冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、お客様の機器・システムとしての出荷保証を行ってください。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様の機器・システムとしての安全検証をお客様の責任で行ってください。
10. 当社製品の環境適合性等の詳細につきましては、製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。かかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関して、当社は、一切その責任を負いません。
11. 当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器・システムに使用することはできません。当社製品および技術を輸出、販売または移転等する場合は、「外国為替及び外国貿易法」その他日本国および適用される外国の輸出管理関連法規を遵守し、それらの定めるところに従い必要な手続きを行ってください。
12. お客様が当社製品を第三者に転売等される場合には、事前に当該第三者に対して、本ご注意書き記載の諸条件を通知する責任を負うものいたします。
13. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを禁じます。
14. 本資料に記載されている内容または当社製品についてご不明な点がございましたら、当社の営業担当者までお問合せください。

注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサス エレクトロニクス株式会社およびルネサス エレクトロニクス株式会社が直接的、間接的に支配する会社をいいます。

注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注 1 において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

(Rev.5.0-1 2020.10)

本社所在地

〒135-0061 東京都江東区豊洲 3-2-24（豊洲フォレストシア）

www.renesas.com

お問合せ窓口

弊社の製品や技術、ドキュメントの最新情報、最寄の営業お問合せ窓口に関する情報などは、弊社ウェブサイトをご覧ください。

www.renesas.com/contact/

商標について

ルネサスおよびルネサスロゴはルネサス エレクトロニクス株式会社の商標です。すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。